# 青年招へい事業

## アジア・太平洋・アフリカ・中南米諸国・中近東
## [交流レポート]

JICA LIBRARY
J 1154063 [0]

1998

国際協力事業団

000
36
TAY
LIBRARY

青招
JR
99-03

# 平成10年度アジア・太平洋・アフリカ・中南米諸国・中近東
# 青年招へい事業

## 開講式

国際協力事業団より歓迎のあいさつ

あいさつに耳を傾ける青年

いよいよプログラムがスタート

## 共通プログラム

なぎなたを初体験（武道鑑賞）

楽しく記念撮影（国立民族学博物館にて）

## 分野別都内プログラム

有意義な訪問ができました(学校訪問)

日本の学校ってどんなところ?

理科の授業は興味津々

浅草で日本の文化を垣間見ました

楽しい思い出をありがとう

## 合宿セミナー

私たちは一体です!!

盛り上がったゲーム大会

いい汗流したね(スポーツ交流)

## 分野別地方プログラム

習字に初挑戦

温かい交流会は忘れられない(学校訪問)

現場の視察は盛りだくさん

"お茶"をいただいて大満足!

## ホームステイ

新しい家族ができました

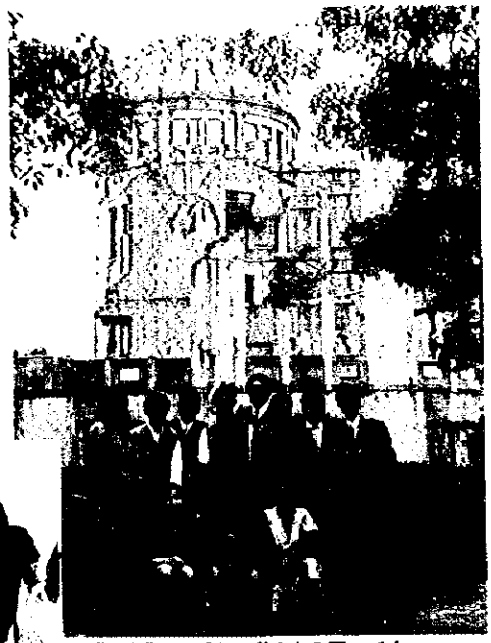
3日間楽しかったね

家族と別れるのは寂しいな

また会いましょう

## 見学旅行

楽しかった日々もそろそろ終わりに(宮島にて)



"平和"——それは私たちの願いです

一緒に思い出を写そう

国際協力事業団より参加証の授与

## 閉講式・歓送会

仲良くなった人たちと

思い出を胸に

覚えたての"盆踊り"をみんなで

# 青年招へい事業

1154063 (0)

# はじめに

「青年招へい事業」は、国際協力事業団（JICA）が開発途上国を対象に実施する技術協力の一環として、アセアンをはじめ、アジア・太平洋・アフリカ・中南米諸国・中近東から、将来の国造りを担う青年を、専門分野別に約１カ月間招へいし、それぞれの分野について学ぶとともに、ホームステイ受入家族などとの幅広い交流を通じて相互理解を深め、信頼と友情を築くことを目的としています。

招へい国は当初アセアン６カ国でしたが、現在では太平洋諸国・地域、ミャンマー、中国、韓国、南西アジア諸国、モンゴル、アフリカ諸国、カンボディア、ラオス、ヴィエトナム、中南米諸国、サウディ・アラビアおよび中央アジア諸国が加わり大きな広がりをもってまいりました。

平成10年度は、1,592名の青年を受け入れ、昭和59年度より平成10年度までの15年間で、日本を訪問したアジア・太平洋・アフリカ・中南米諸国・中近東の青年は18,194名に達しました。これはひとえに、関係各方面の皆様のご協力と温かいご支援によるものと、心からお礼申し上げます。

本報告書は、招へい青年、合宿セミナーに参加した日本青年、およびホームステイを引き受けていただいた全国の家庭の皆様から寄せられた感想文を中心に、招へい青年の滞在記録をとりまとめたものです。本報告書が本事業のさらなる発展の指針となり、また皆様の良き思い出の一助となれば幸いです。

なお、本報告書は今年度の全招へい青年および各国の関係者にも送付させていただく予定です。

最後となりましたが、心温まるご感想、ご意見をお寄せいただいた皆様ならびに関係者の方々に重ねて厚くお礼申し上げますとともに、「青年招へい事業」がさらに有意義なプログラムとなりますよう、今後ともご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

平成11年３月

国際協力事業団
研 修 事 業 部
部長　金子節志

# 目　　次

はじめに

1．青年招へい事業—アジア・太平洋・アフリカ・中南米諸国・中近東--

(1) 計画の概要……7

(2) 平成10年度青年招へい実績一覧……12

(3) 青年招へい事業　国別年度別受け入れ実績……14

2．招へい青年の印象

**アジア**

ブルネイ……17
インドネシア……18
マレイシア……21
フィリピン……24
シンガポール……27
タイ……29
バングラデシュ……32
ブータン……32
インド……33
モルディヴ……33
ネパール……34
パキスタン……34
スリ・ランカ……35
モンゴル……35
ミャンマー……36
カンボディア……36
ラオス……37
ヴィエトナム……37
タジキスタン……39

**太平洋諸国・地域**

フィジー……39
太平洋諸国・地域……41
パプア・ニューギニア……42
サモア……43

**アフリカ**

コートジボアール……43
ガボン……43
ナミビア……44
ザンビア……45

**中南米**

エクアドル……46
ホンデュラス……47

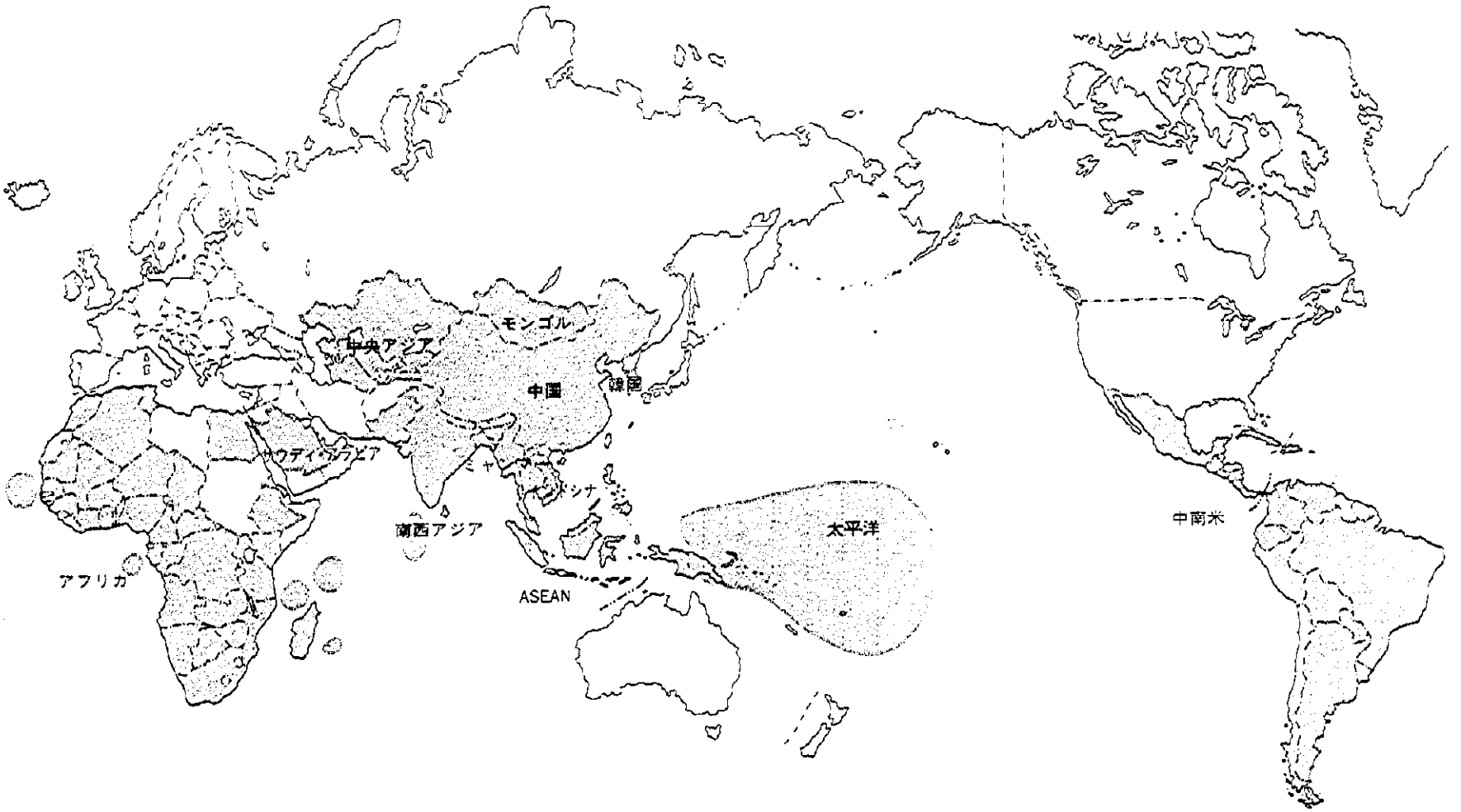
**中近東**

サウディ・アラビア……47

3．合宿セミナー参加日本青年の声……49

4．ホストファミリーの思い出……53

JICA関係機関連絡先……57




招へい対象国・地域

# 7. 青年招へい事業

## アジア・太平洋・アフリカ・中南米諸国・中近東

### (1) 計画の概要

#### 1) 目 的

青年招へい事業は国際協力事業団（JICA）が開発途上国を対象に実施する技術協力の一環として、これら諸国の未来の国造りを担う青年を専門分野別に1カ月間わが国に招へいし、それぞれの分野について学ぶとともに、これらの参加青年が日本の同世代の青年との交流を通じ相互理解を深め真の友情と信頼を培うことを目的とする。

#### 2) 招へい事業

(a) 実施方法

a） 招へい人数

平成10年度は、旧ASEAN 6カ国より755名(ブルネイ45名、シンガポール110名、インドネシア、マレイシア、フィリピン、タイ各150名)、ミャンマー20名、パプア・ニューギニア、フィジーをはじめとする太平洋14カ国・地域より計90名、インド、パキスタンをはじめとする南西アジア7カ国より100名、モンゴルより10名、アフリカ諸国49カ国より100名、ヴィエトナムより100名、カンボディアより30名、ラオスより20名、中南米諸国21カ国より50名、サウディ・アラビアより20名、中央アジア5カ国より25名の合計1,320名を招へいする。

b） 招へい対象者

以下の分野の指導的立場にある18～35歳の青年。

①経済、経営

経済官庁公務員、貿易実務関係者、経済学専攻の学生、エコノミスト、ジャーナリスト、中小企業等産業関連の青年労働者、産業関係の技術研究開発従事者等

（旧ASEAN 6カ国、カンボディア、ヴィエトナム、中央アジア諸国）

②教育、教員

教員、教育行政公務員、教育学専攻の学生、文化、スポーツ関係者

（旧ASEAN 6カ国、太平洋諸国、ミャンマー、ヴィエトナム、中南米諸国、アフリカ諸国、サウディ・アラビア、ブータン、モルディヴ、ネパール、スリ・ランカ、パキスタン、インド）

③社会開発

青少年事業の活動者、地域振興・観光開発関係者、社会開発に従事する公務員、社会学専攻の学生

（ブルネイ、シンガポール、インドネシア、タイ、フィリピン）

④農業、農業開発、農業関係公務員

林業・水産を含む農業従事者、農業団体職員、農業関係公務員、農学専攻の学生等

(旧ASEAN 6カ国、ラオス、ヴィエトナム)

⑤環境保全

環境行政公務員、環境保全関連実務者

(旧ASEAN 6カ国)

⑥社会福祉

社会福祉公務員、社会福祉学専攻の学生、社会奉仕関係者

(旧ASEAN 6カ国、中南米諸国)

⑦保健医療

医師・看護婦等医療従事者、医学専攻の学生

(旧ASEAN 6カ国)

⑧行政、公務員

中央、地方政府の行政官

(旧ASEAN 6カ国、太平洋諸国(パプア・ニューギニア)、ヴィエトナム、バングラデシュ)

⑨勤労青年

企業等労働者、公務員、ジャーナリスト

(モンゴル)

⑩科学技術開発

科学技術開発関係公務員、科学技術開発関係分野専攻の学生等

(マレイシア)

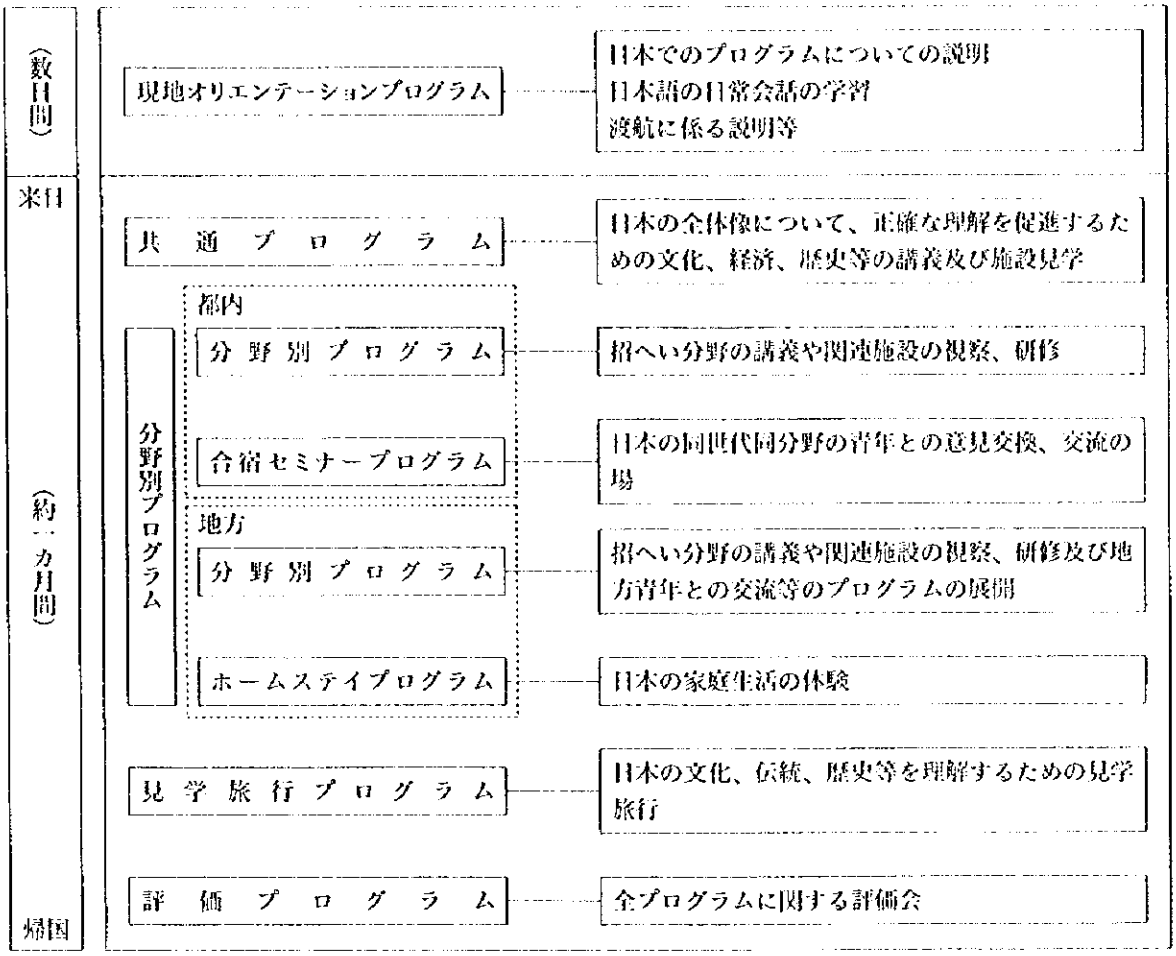
c) 招へい期間

約1カ月。来日前、数日間の現地オリエンテーションプログラムを実施(実施しないグループもある)。

d) 受け入れ時期

1998年5月から1999年2月

## 3) プログラム概要




## 4) アフターケア事業

「青年招へい事業」により日本に招へいした青年が、帰国後も対日理解を増進し、日本の同世代の青年たちとの友情を持続させるよう、青年の帰国後、以下のアフターケア事業を実施している。

(a) 文献供与

帰国青年に対し、日本でのプログラム内容をとりまとめた「交流レポート」や海外向け広報誌"JICA Network"などの送付を行い、帰国後も対日理解が持続されるよう、情報提供を実施している。

(b) 各国同窓会の設立

各国の帰国青年によって構成される同窓会設立を促進し、同窓会名簿の作成、新規招へい青年の現地プログラムへの協力、帰国青年のための総会及び会報作成等の活動を同窓会が主体的に実施するにあたり、所要経費負担をするなど側面的支援を行っている。ブルネイ、インドネシア、マレイシア、フィリピン、シンガポール及びタイではすでに同窓会が設立され、パプア・ニューギニアその他の太平洋諸国・地域や南西アジア諸国においては、準備中あるいはその機運が盛り上がっている。

(c) 同窓会交流連絡会

各国の同窓会の連携を図ることによって、各国同窓会を充実し、日本の招へい事業の効果を継続的、多角的に発展させるため、各国同窓会が一堂に会して交流連絡会を開催するにあたり、日本側は旅費等の経費面で支援するとともに、日本側代表者を派遣し、各国代表者との包括的な意見交換等を行っている。なお交流連絡会

は、現在のところ、同窓会が設立されているASEAN諸国間で行われており、1988年に第1回連絡会がインドネシアで開催され、その後、毎年持ち回りで実施されている。

(d) アフターケア・チームの派遣

青年の招へいに中心的役割を果たした交流青年、ホストファミリー、関係機関担当者から構成される日本青年団を各国に派遣することによって、帰国青年の日本理解をフォローアップするとともに、受入関係者が各国の実態を把握することによって、より効果的なプログラム策定に役立てる。また、これらアフターケア・チームの派遣により、片側通行であった交流事業を相互に発展・拡充させ、一層の信頼と友情を深める。平成10年度はマレイシア、タイ、フィリピンに3チーム派遣する。

## (2) 平成10年度青年招へい実績一覧

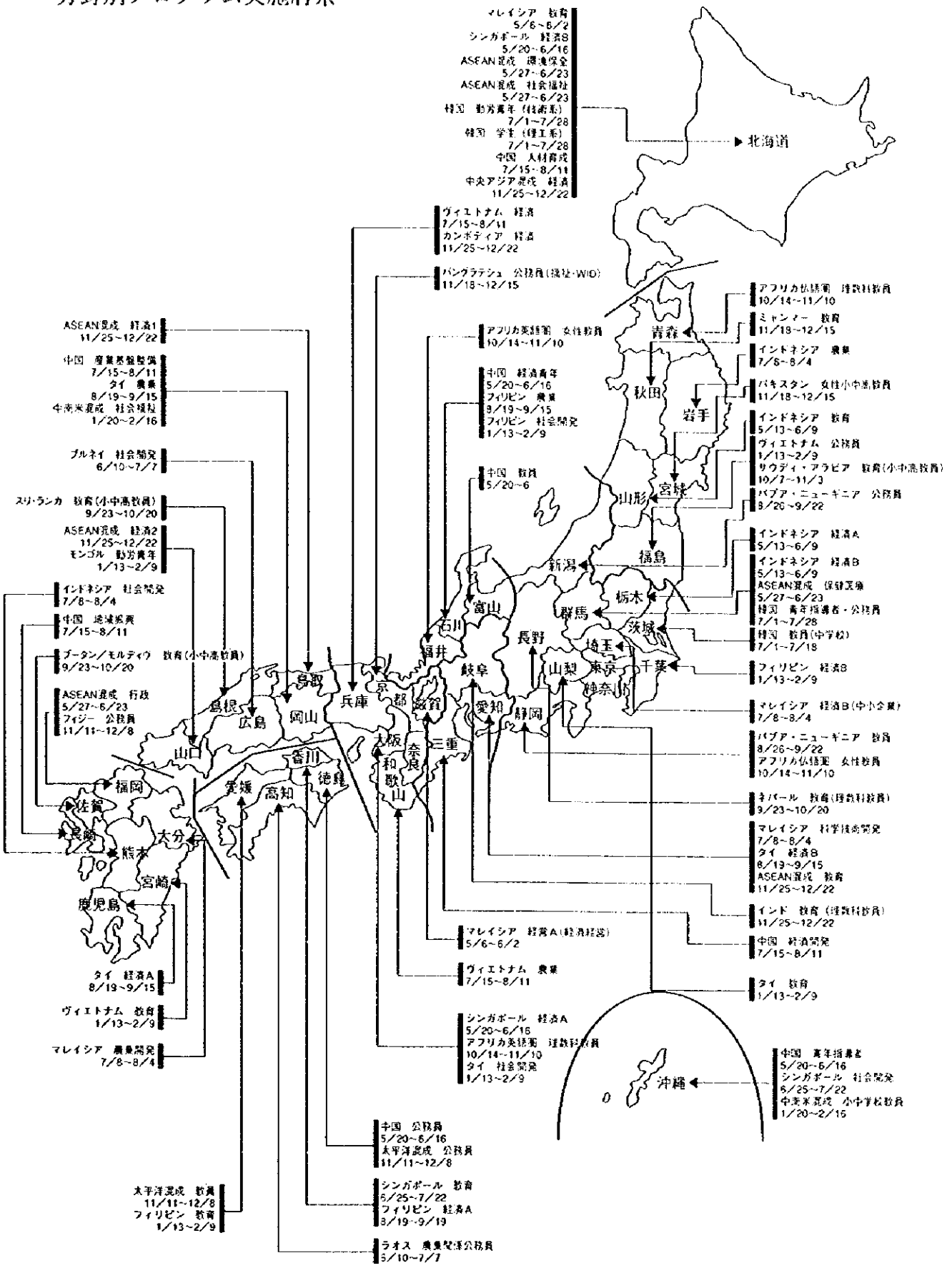
| 受入時期<br>陣・人数 | 国名 | 分野 | 人数 | 実施協力団体 | 実施県 | 地方団体 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 5月6日<br>～<br>6月2日<br>1陣 49人 | マレイシア | 経済A(経済) | 24 | 青少年育成国民会議 | 滋賀 | 滋賀県青年団体連合会 |
| | マレイシア | 教育 | 25 | 日本ユースホステル協会 | 北海道 | とまこまい国際交流センター |
| 5月13日<br>～<br>6月9日<br>2陣 66人 | インドネシア | 経済A | 20 | 国際交流サービス協会 | 栃木 | (財)栃木県青年会館 |
| | インドネシア | 経済B | 24 | 勤労厚生協会 | 群馬 | アセアン青年招へい事業前橋市実行委員会 |
| | インドネシア | 教育 | 22 | 青年海外協力協会 | 山形 | 山形県青年海外協力協会 |
| 5月20日<br>～<br>6月16日<br>3陣 31人 | シンガポール | 経済A | 17 | 日本経済青年協議会 | 大阪 | (財)太平洋人材交流センター |
| | シンガポール | 経済B | 17 | 勤労厚生協会 | 北海道 | 千歳国際交流協会 |
| 5月20日<br>～<br>6月16日<br>4陣 100人 | 中国 | 青年指導者 | 25 | 青少年育成国民会議 | 沖縄 | (社)沖縄県青少年育成県民会議 |
| | 中国 | 経済青年 | 25 | ユースワーカー能力開発協会 | 石川 | 小松市国際交流協会 |
| | 中国 | 公務員 | 25 | 世界青少年交流協会 | 徳島 | 徳島県日中青年交流協会 |
| | 中国 | 教員 | 25 | 国際交流サービス協会 | 富山 | (財)とやま国際センター |
| 5月27日<br>～<br>6月23日<br>5陣 111人 | ASEAN混成 | 環境保全 | 29 | 日本経済青年協議会 | 北海道 | 釧路市海外青年招へい事業実行委員会 |
| | ASEAN混成 | 社会福祉 | 28 | 札幌国際プラザ | 北海道 | (財)札幌国際プラザ |
| | ASEAN混成 | 保健医療 | 30 | 国際看護交流協会 | 群馬 | (財)国際看護交流協会 |
| | ASEAN混成 | 行政 | 24 | 青少年育成国民会議 | 福岡 | (財)九州・山口経済連合会 |
| 6月10日<br>～<br>7月7日<br>6陣 35人 | ブルネイ | 社会開発 | 15 | 日本国際生活体験協会 | 広島 | しょうばら国際交流協会 |
| | ラオス | 農業関係公務員 | 20 | 高知県国際交流協会 | 高知 | (財)高知県国際交流協会 |
| 6月25日<br>～<br>7月22日<br>7陣 39人 | シンガポール | 教育 | 20 | 日本ユースホステル協会 | 香川 | 香川県海外派遣友の会 |
| | シンガポール | 社会開発 | 19 | ユースワーカー能力開発協会 | 沖縄 | (財)沖縄県国際交流財団 |
| 7月1日<br>～<br>7月28日<br>8陣 99人 | 韓国 | 青年指導者(公務員) | 24 | 日本ユースホステル協会 | 群馬 | (財)群馬県国際交流協会 |
| | 韓国 | 勤労青年(技術系) | 25 | 勤労厚生協会 | 北海道 | (社)帯広青年会議所 |
| | 韓国 | 教員(中学校) | 25 | 国際交流サービス協会 | 茨城 | 茨城県外国青年招へい事業実行委員会 |
| | 韓国 | 学生(理工系) | 25 | 世界青少年交流協会 | 北海道 | (財)滝川国際交流協会 |
| 7月8日<br>～<br>8月1日<br>9陣 112人 | マレイシア | 経営(中小企業) | 24 | 日本ユースホステル協会 | 埼玉 | 上尾市国際交流協会 |
| | マレイシア | 農業開発 | 15 | 青年海外協力協会 | 大分 | 大分県海外協会 |
| | マレイシア | 科学技術開発 | 24 | 豊川市国際交流協会 | 愛知 | (財)豊川市国際交流協会 |
| | インドネシア | 農業 | 25 | 岩手県国際交流協会 | 岩手 | (財)岩手県国際交流協会 |
| | インドネシア | 社会開発 | 24 | 青少年育成国民会議 | 熊本 | 熊本県青年海外協力協会 |
| 7月15日<br>～<br>8月11日<br>10陣 50人 | ヴィエトナム | 経済 | 25 | ユースワーカー能力開発協会 | 兵庫 | (財)神戸国際協力センター |
| | ヴィエトナム | 農業 | 25 | 青年海外協力協会 | 和歌山 | (社)和歌山県青少年育成協会 |
| 7月15日<br>～<br>8月11日<br>11陣 100人 | 中国 | 産業基盤整備 | 25 | 日本国際協力センター | 岡山 | (財)岡山県国際交流協会 |
| | 中国 | 経済開発 | 25 | 勤労厚生協会 | 三重 | (財)三重県国際交流協会 |
| | 中国 | 地域振興 | 25 | 世界青少年交流協会 | 長崎 | 長崎県世界青年友の会 |
| | 中国 | 人材育成 | 25 | ユースワーカー能力開発協会 | 北海道 | 十勝インターナショナル協会 |
| 8月19日<br>～<br>9月15日<br>12陣 69人 | タイ | 経済A | 20 | 日本経済青年協議会 | 鹿児島 | (財)鹿児島県国際交流協会 |
| | タイ | 経済B | 24 | 勤労厚生協会 | 愛知 | ジャパンヤングサークル東海支部 |
| | タイ | 農業 | 25 | 日本青年団協議会 | 岡山 | (財)岡山県青年館 |

| 受入時期<br>陣・人数 | 国名 | 分野 | 人数 | 実施協力団体 | 実施県 | 地方団体 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 8月19日<br>～<br>9月15日<br>13陣 45人 | フィリピン | 経済A | 20 | 日本国際協力センター | 香川 | (財)香川県国際交流協会 |
| | フィリピン | 農業 | 25 | 青年海外協力協会 | 石川 | (財)石川県国際交流協会 |
| 8月26日<br>～<br>9月22日<br>14陣 29人 | パプア・ニューギニア | 公務員 | 10 | 世界青少年交流協会 | 新潟 | (財)新潟県国際交流協会 |
| | パプア・ニューギニア | 教員 | 19 | 青年海外協力協会 | 静岡 | 沼津国際交流協会 |
| 9月23日<br>～<br>10月20日<br>15陣 30人 | ブータン/モルディヴ | 教育(小中高教員) | 10 | 国際交流サービス協会 | 佐賀 | 佐賀ユネスコ協会 |
| | ネパール | 教育(理数科教員) | 10 | 日本国際協力センター | 長野 | (社)駒ヶ根青年会議所 |
| | スリ・ランカ | 教育(小中高教員) | 10 | 世界青少年交流協会 | 島根 | 島根県国際交流青友会 |
| 10月7日<br>～<br>11月3日<br>20人 | サウディ・アラビア | 教育(小中高教員) | 20 | 青年海外協力協会 | 福島 | にほんまつ地球市民の会 |
| 10月14日<br>～<br>11月10日<br>16陣 92人 | アフリカ英語圏 | 女性教員 | 21 | 青少年育成国民会議 | 福井 | 武生市国際交流協会 |
| | アフリカ仏語圏 | 女性教員 | 24 | 世界青少年交流協会 | 静岡 | (財)静岡県国際交流協会 |
| | アフリカ英語圏 | 理数科教員 | 24 | 大阪府国際交流財団 | 大阪 | (財)大阪府国際交流財団 |
| | アフリカ仏語圏 | 理数科教員 | 23 | 青年海外協力協会 | 青森 | 青森県青年海外協力協会 |
| 11月11日<br>～<br>12月8日<br>17陣 59人 | 太平洋混成 | 公務員 | 21 | 日本経済青年協議会 | 徳島 | 徳島県青年海外協力協会 |
| | 太平洋混成 | 教員 | 23 | 日本国際生活体験協会 | 愛媛 | (財)愛媛県国際交流協会 |
| | フィジー | 公務員 | 12 | 国際交流サービス協会 | 福岡 | 福岡県海外青年招へい事業実行委員会 |
| 11月18日<br>～<br>12月15日<br>18陣 60人 | ミャンマー | 教育 | 20 | 日本国際協力センター | 秋田 | 秋田県世界青年友の会 |
| | バングラデシュ | 公務員(経済・WID) | 20 | 青年海外協力協会 | 京都 | (財)青年海外協力協会近畿支部 |
| | パキスタン | 婦(小高教員) | 20 | 日本ユースホステル協会 | 宮城 | 宮城県ユースホステル協会 |
| 11月25日<br>～<br>12月22日<br>19陣 58人 | インド | 教育(理数科教員) | 28 | 世界青少年交流協会 | 岐阜 | 岐阜県世界青年友の会 |
| | カンボディア | 経済 | 30 | 青少年育成国民会議 | 兵庫 | (財)兵庫県青少年本部 |
| 11月25日<br>～<br>12月22日<br>20陣 109人 | ASEAN混成 | 教育 | 25 | 愛知県国際交流協会 | 愛知 | (財)愛知県国際交流協会 |
| | ASEAN混成 | 経済1 | 29 | 日本経済青年協議会 | 鳥取 | とっとり青友会 |
| | ASEAN混成 | 経済2 | 30 | 勤労厚生協会 | 山口 | (財)山口県国際交流協会 |
| | 中央アジア混成 | 経済 | 25 | 青少年育成国民会議 | 北海道 | 北海道YMCA |
| 1月13日<br>～<br>2月9日<br>21陣 97人 | タイ | 教育 | 22 | 日本国際協力センター | 山梨 | (財)青少年育成山梨県民会議 |
| | タイ | 社会開発 | 25 | 国際交流サービス協会 | 大阪 | (財)大阪府青少年活動財団 |
| | ヴィエトナム | 公務員 | 25 | 日本ユースホステル協会 | 福島 | 福島県青年海外派遣友の会 |
| | ヴィエトナム | 教育 | 25 | ユースワーカー能力開発協会 | 宮崎 | ユースワーカー能力開発協会宮崎県支部 |
| 1月13日<br>～<br>2月9日<br>22陣 80人 | フィリピン | 教育 | 22 | 日本国際生活体験協会 | 愛媛 | 愛媛県青年海外協力協会 |
| | フィリピン | 社会開発 | 26 | 日本ユースホステル協会 | 石川 | (財)石川県ユースホステル協会 |
| | フィリピン | 経済B | 22 | 青少年育成国民会議 | 千葉 | (財)千葉県国際交流協会 |
| | モンゴル | 勤労青年 | 10 | 世界青少年交流協会 | 山口 | 世界青年徳山友の会 |
| 1月20日<br>～<br>2月16日<br>23陣 49人 | 中南米混成 | 社会福祉 | 22 | 世界青少年交流協会 | 岡山 | 岡山県世界青年友の会 |
| | 中南米混成 | 小中学校教員 | 27 | 青年海外協力協会 | 沖縄 | (財)沖縄県国際交流財団 |
| 合計 | 71グループ<br>110カ国・地域<br>1,592名 | 旧ASEAN 6カ国(741)　ミャンマー(20)　太平洋14カ国・地域(88)　中国(200)　韓国(99)<br>南西アジア7カ国(98)　モンゴル(10)　アフリカ49カ国(92)<br>インドシナ3カ国(150)　中南米21カ国(49)　サウディ・アラビア(20)<br>中央アジア5カ国(25) | | | | |

## (3) 青年招へい事業　国別年度別受け入れ実績

| 国名＼年度 | 昭和59 | 昭和60 | 昭和61 | 昭和62 | 昭和63 | 平成元 | 平成2 | 平成3 | 平成4 | 平成5 | 平成6 | 平成7 | 平成8 | 平成9 | 平成10 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| インドネシア | 149 | 150 | 150 | 150 | 150 | 149 | 150 | 149 | 147 | 149 | 145 | 150 | 149 | 150 | 148 | 2,235 |
| マレイシア | 147 | 148 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 149 | 150 | 150 | 146 | 2,240 |
| フィリピン | 149 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 149 | 147 | 148 | 149 | 150 | 149 | 150 | 148 | 149 | 2,238 |
| シンガポール | 149 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 147 | 149 | 149 | 147 | 146 | 149 | 148 | 106 | 2,190 |
| タイ | 149 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 149 | 147 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 2,245 |
| ブルネイ | 5 | 30 | 49 | 50 | 50 | 49 | 50 | 43 | 50 | 48 | 49 | 48 | 49 | 48 | 42 | 660 |
| ASEAN諸国小計 | 748 | 778 | 799 | 800 | 800 | 798 | 799 | 786 | 793 | 792 | 791 | 792 | 797 | 794 | 741 | 11,808 |
| 中国 | — | — | — | 100 | 100 | 50 | 199 | 200 | 199 | 197 | 200 | 197 | 200 | 200 | 200 | 2,042 |
| 韓国 | — | — | — | 100 | 99 | 99 | 100 | 98 | 99 | 96 | 100 | 98 | 100 | 97 | 99 | 1,185 |
| モンゴル | — | — | — | — | — | — | — | — | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 70 |
| ミャンマー | — | — | 10 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 120 |
| インド | — | — | — | — | — | — | — | 30 | 29 | 30 | 13 | 23 | 27 | 24 | 28 | 204 |
| バングラデシュ | — | — | — | — | — | — | — | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 19 | 20 | 159 |
| パキスタン | — | — | — | — | — | — | — | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 160 |
| ネパール | — | — | — | — | — | — | — | 10 | 9 | 10 | 10 | 10 | 10 | 7 | 10 | 76 |
| ブータン | — | — | — | — | — | — | — | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 40 |
| スリ・ランカ | — | — | — | — | — | — | — | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 80 |
| モルディヴ | — | — | — | — | — | — | — | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 40 |
| 南西アジア諸国小計 | — | — | — | — | — | — | — | 100 | 98 | 100 | 83 | 93 | 97 | 90 | 98 | 759 |
| アフリカ諸国 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 50 | 100 | 97 | 95 | 95 | 92 | 529 |
| フィジー | — | — | 10 | 10 | 11 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 151 |
| パプア・ニューギニア | — | — | 10 | 14 | 30 | 34 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 29 | 29 | 356 |
| その他太平洋諸国・地域 | — | — | — | — | 45 | 38 | 36 | 32 | 36 | 31 | 38 | 36 | 47 | 47 | 47 | 436 |
| 太平洋諸国・地域小計 | — | — | 20 | 24 | 86 | 84 | 78 | 74 | 78 | 76 | 80 | 78 | 89 | 88 | 88 | 943 |
| ヴィエトナム | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 98 | 99 | 99 | 100 | 396 |
| カンボディア | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 30 | 30 | 30 | 30 | 120 |
| ラオス | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 20 | 18 | 20 | 20 | 78 |
| インドシナ諸国小計 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 148 | 147 | 149 | 150 | 594 |
| メキシコ | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 11 | 3 | 14 |
| ブラジル | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 15 | 2 | 17 |
| ペルー | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 11 | 4 | 15 |
| チリ | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 6 | 2 | 8 |
| その他中南米諸国 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 7 | 38 | 45 |
| 中南米諸国小計 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 50 | 49 | 99 |
| サウディ・アラビア | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 20 | 20 |
| カザフスタン | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 6 | 6 |
| キルギス | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 5 | 5 |
| タジキスタン | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 5 | 5 |
| トルクメニスタン | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 4 | 4 |
| ウズベキスタン | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 5 | 5 |
| 中央アジア諸国小計 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 25 | 25 |
| 合計 | 748 | 778 | 829 | 834 | 886 | 882 | 877 | 960 | 979 | 1,028 | 1,084 | 1,238 | 1,255 | 1,296 | 1,592 | 18,194 |

## 分野別プログラム実施府県



# 2. 招へい青年の印象

## ■アジア

## ■ブルネイ

### ブルネイ青年の目から見た日本

アブドル・ラヒム・ビー・ハジ・スレイマン
(社会開発グループ)

世界の国々にとっての日本は、日出づる国である。日本は近年、人口・経済の両面において急速に発展し始め、現在は技術先進国として世界中に知られる国に成長している。私たちブルネイ青年にとって、日本は世界で最も平和で緑豊かな、そして礼儀正しく、誠実な社会だと考えられている。特に、広島、長崎への原爆投下後（戦後）の日本に対して、私たちはこのようなイメージを持っている。しかし、それを信じるためには自分の目で確かめなければならない。

日本は、都市と、自然環境が保全されている地方の両方において、経済的・技術的に進んでいることを誇れる国だ。しかし、文化的に豊かであっても、家族の絆を維持し、他の人々に関心を持つという心の面では貧しいところがあると、特に都会で感じた。

日本での1カ月はあっという間に過ぎ去り、来日したのが昨日のことのように感じる。しかし、この1カ月間に、日本の生活様式、文化、経済などについて多くのことを学ぶことができた。

最後に、このような意見を述べる機会を得て感謝している。多くの若い世代のために、家族の絆が永久に失われないように、一緒に力を尽くしていくことを心から願っている。

### 日本での生活体験

シア・アイ・チン
(ASEAN混成 教育グループ)

私の日本での生活体験を1ページでまとめることは、とてもできないが、できる限りの私の体験を書いてみたい。1カ月に及ぶ日本滞在中、非常に多くの、素晴らしく、意義深く、記憶に残る時間を過ごすことができた。

一番のハイライトは、ホームステイだ。このプログラムによって、私は料理をしたり、食事をしたり、意見交換をしたりと、日本の普通の生活をとても楽しく体験できた。私が心地よく過ごせるようにと、ホストファミリーの皆が心配りをしてくださったことも忘れられない。ホストファミリーはたいへん忙しい生活をしているにもかかわらず、日曜日はリサイクル品回収の集まりに参加するなど、地域社会の人々と密接な関係を保っていることに、感心した。

様々な教育機関の訪問と先生方とのディスカッションによって、私たちの教育制度には類似点と相違点があるが、私たち教育に携わる者は次世代の子供たちを教育するという同じ課題を抱えている、ということが分かった。

合宿セミナーでは、日本人青年と主に教育について、素晴らしい意見交換ができた。私は、知識と友情も得ることができ、これはプログラム終了後も続いていくことだろう。

製造工場訪問では、ハイテク化されていても、会社は従業員のために良好な労働条件と福利厚生を提供するなど、人間的側面が最重要視されていることを知った。

もう一つ私が気づいたのは、障害を持つ人々のための施設があるということだ。身体的障害があっても、彼らは自立できるように訓練を受け、そのため

に実りある人生を送ることができるであろう。彼らの中には、作業が軽度の工場で働いている人たちさえいるのだ。

私がブルネイに持ち帰るのは、名刺とおみやげだけではない。貴重な体験と私の同僚や学生たちと共有できる多くの知識も持ち帰る。同時に私は、日本人関係者の方々もこの交流から多くのものを得、参加国と主催国間に理解の橋を架けるという、青年招へい事業の目的にかなうことができるものと期待している。

最後に、「とても楽しかった」と言いたい。そしていつの日か、再び皆様にお目にかかりたいと思う。

ありがとうございました。

## ■アジア

## ■インドネシア

## 夢に見た国、日出づる国日本へ

ヘリベルトゥス・プラノト
(経済Aグループ)

日本へ行くことは私にとって、以前は、夢にすぎなかった。しかし今、その夢がかなった。私は、美しい場所や歴史的価値のあるところを訪れ、日本人と友達になった。夢の中でしか存在しなかったそれらが、現実として私の目の前に現れた時、本当に幸せだった。

約1カ月の間、これが現実なのか、それとも夢なのか、時々分からなくなることがあった。これが夢なら、覚めないうちにこれを記しておこう。

来日前、日本は効率的で時間厳守の国だと聞かされていた。しかし、日本で見たものは、それだけではなかった。日本人はとても礼儀正しく、物腰が柔らかいけれど、あまりハメをはずさないという印象があった。でも、日本人自身はそれを窮屈には感じていないらしい。というのも、飲酒の習慣があるからだろう。お酒を飲んでしまうと開けっぴろげになり、思っていることを話すので、お互いの気持ちが理解できるのだと思う。このことは、2日間のホームステイで経験した。私は、その時までアルコールはビールもウイスキーも日本酒も赤ワインも口にしたことがなかった。しかし、日本のお兄さん（ホストファミリー）からお酒を勧められた時、私は名誉と友情を感じた。日本人にとってお酒は酔うためだけのものではなく、お互いを理解するための道具なのだ。私には奇妙に感じられるが、日本人にとっては、いい方法だと思う。

日本人との友情は、私の心の琴線に触れた。たとえ遠く離れても、友情は永遠に続く。

## 青年招へい事業に参加して

ユスフ
(経済8グループ)

今回私たちが参加した青年招へい事業は、たいへん円滑に実施された。プログラムが終了し、私たち

は帰国の途につくが、これは私にとっていつまでも忘れられない楽しくユニークな経験になるだろう。

インドネシア人である私は、慣れ親しんだインドネシアの文化、習慣を離れて、日本滞在中は、予想もしていなかった新しい経験をした。それは、日本の食生活とホームステイを通じての日本人のライフスタイルの経験だ。

食生活に関しては、私は今まで、日本では海の幸はすべて生で供されると思っていたが、実際は、魚もほとんど調理されていた。しかし、残念ながら、インドネシア料理に慣れた私の舌は、せっかく出された日本料理をおいしく味わうことはできなかった。日本滞在中、朝食に日本食はほとんどなかったが、昼食と夕食では日本食を楽しむ機会がしばしばあった。ある日、昼食で日本食レストランに行った時、箸を使うことは、私はインドネシアでも慣れていたので、問題はなかったが、どうやって食べるのか、どの皿から食べるのか、分からなかった。

食事と同様に印象深いのは、ホームステイだ。館林市の歓迎会での、ホストファミリーとの対面式は、心臓の鼓動が激しくなるほどの興奮を覚えた。翌日のホストファミリーへの引き渡し式のあと、私は、ホストファミリーの家に案内されたが、「これからどうなるのだろう、日本人の生活ってどんなものなのだろうか」と、その時の不安は言葉には言い表せないほどだった。

しかし、私のこのような不安は、ホームステイが始まると、すぐに消えた。ホストファミリーと理解し合うことができ、まるで自分の本当の家族の中にいるような安心感を覚えた。私のホストファミリーのお母さんは、専業主婦だったが多忙なため、息子のやすひろ君や娘のみきこさんが館林の観光名所を案内してくれた。この機会に多くの日本文化を学ぶことができた。ホストファミリーの皆さんの親切、素晴らしいもてなしを忘れることはできない。いつかまた日本を訪れ、私のホストファミリーと再会できればと思う。

このプログラムに参加したことが、私の人生の中で美しい思い出とともに貴重な経験となるよう、また日本とインドネシア両国の友好がいつまでも続くよう願っている。

## 教育、友情、そして平和

アンナ・ファウジア
（教育グループ）

最初に〝ドラえもん〟の国に降り立った時は、感嘆と不安感の入り交じったような複雑な気持ちで、心が揺れた。そのうえ、空港の外は寒くて、ますます心も身体も緊張した。しかし、スチュワーデスのにこやかな挨拶と親切が、それらの偏見や不信感を徐々に消していった。

〝桜の国〟日本は、経済も産業も進んだ国だが、それは教育を重要視してきたからにほかならない、と思う。日本紹介の講義で、「日本政府は発展の初期の段階で教育を重視し、教育分野に多くの政府の補助金が注がれ、学校の設備は充実し、親たちは子供の教育のために一生懸命働く」、と講師の方が言っていた。

教育県として有名な山形県を訪問して、それが本当だということが分かった。山形には、日本の教育史や教育理念を伝える資料館があり、山形に滞在した10日間、私たちはこの資料館を見学したり、教育機関を視察した。それに加えて、３日間のホームステイで、教育者の創造性や学校の秩序正しさ、夫婦や家族の仲むつまじさ、家族そろって食事をし、家族の間でも挨拶をおろそかにしない習慣、そしてそれが温かい雰囲気を作っていることなどを知って、感心した。しかも、子供たちは早い時期から自立するようにしつけられている。

日本の青年と直接話をしたり文化交流をする機会はあったのだが、残念だったのは、日本の若者のための〝伝統文化継承者育成機関〟をみる機会に恵まれなかったことだ。そのようなものはないのか、それともたまたまプログラムに組まれていなかっただけなのか。ただ、日本の青年たちが言うには、彼らのほとんどは伝統文化や伝統芸術には興味がないそうだ。ディスコに行くほうが楽しいということだ。だから、私たちがインドネシアの伝統舞踊を踊るのを見て、日本の青年はとても驚いていた。

時が過ぎ行くのは早いもので、１カ月がとても短く感じられた。でも、この青年招へい事業から得たものはとても大きかった。プログラムの最後に訪れた広島では、街の隅々まで平和の香りに満ちていた。

そこにいる人は、皆誰もが微笑みを交わし、挨拶を交わす。きっと〝母たちの祈り〟は届くだろう。大地の母たちが渇望する平和、そして友情。平和の第一歩として。

## 駆け足で見た日本の農業

ザイナル・アリフィン
(農業グループ)

青年招へい事業は、良いプログラムだった。日本の文化を理解し、楽しむことができた。

しかしなんといっても感心したのは、農業だ。日本では、たった一毛作で国内のコメの需要が賄えるほどの生産量があるそうだ。それどころか、余っているほどだという。

それも当然といえば当然だ。かなり高度な技術が取り入れられている。田んぼは定規で線を引いたかのように同じ形、同じ大きさで、きれいに整備されているし、機械は泥なんかへっちゃらとでもいうように田んぼに出入りする。それも人間みたいに動くのだ。それなのになぜ、コメを輸入しなければならないんだろう。岩手県の人の話では、コメの生産の制限までしているそうだ。私には、分からない。

沢内村の合宿セミナーでは、日本の青年たちと意見交換した。みんなとてもいい人たちで、私たちを心から受け入れてくれた。そこで分かったのだが、日本の若い人たちはあまり農業に就きたくないらしい。仕事はきついし、汚れるし、おまけに結婚も難しくなるそうだ。変な話だと思うけど、本当のことだそうだ。日本の農業者の多くはもう高齢で、彼らが働けなくなったら、いったい誰が農業をするのだろう。日本人はジャポニカ米が好きだけど、日本でつくらなければ、どうやって調達するつもりなのだろうか。

岩手農業研究センターによると、日本では有機農業に注目しているそうだ。農薬で汚染されたものを食べたくないという消費者のニーズに合っているし、おいしいし、安心して食べられるからいいことだと思う。だが、有機農業は今のところまだスローガンどまりだ。

実際には、まだいろいろなところで除草剤や化学肥料が使われている。私たちが訪問した農業大学校でもそうだった。でも日本人なら、除草剤に代わる効率のよい除草機を作ることができるはずだ。そのほうが環境にもいいはずだから。

## 日本からの素晴らしい贈り物

リズカ・オクトラ・イブラヒム
(社会開発グループ)

私にとって、日本滞在中の最も印象深い瞬間を決めることはとても難しいことだ。すべてが特別な瞬間だった。言葉では言い表せない、ましてや忘れることなどできない思い出ばかりだ。もし、私が一台のビデオカメラだったなら、その過ぎ行く日々を克明に記憶できたのに。時々、〝これは夢じゃない〟と自分に言い聞かせたほどの、素晴らしい日々。

広島は、大阪国際センターに戻る前の最後の訪問先だった。友好、世界平和、国際関係など様々な事柄の結論がここで導かれたように思う。50年以上前広島が粉々に破壊された後、現在のような近代都市へと発展したことに驚い、私たちも困難な状況から復興できるのだと気づかせてくれた。

日本の青年たちとの交流、着物の着付けの体験、臨海副都心の視察、世界一物価の高い都市東京での買い物、ホームステイで日本の生活を体験したことなど、すべてが有意義だった。すべてが夢ではなかった。すべてが未来に向かってつながっていくことなのだ。

広島は、私の旅の終着点ではなく、より大切な新しい始まりの一歩だった。私のこの体験は、母国への素晴らしい贈り物となった。

## 日本人

アーマッド・ザッキー
(ASEAN混成 経済1グループ)

日本が急速な経済成長を遂げた数ある要因の中で、最も大きな要因は〝人材〟、つまり〝人〟だと、私は思う。

日本の企業は、高度な技術に支えられており、独自の中核能力（core competence）を有し、人と機械の調和がとれている。また、政府の政策のお陰で、

すべての企業が、教育や研究開発に力を注ぎながら経済的に自立する機会を得ている。しかし、こうしたことすべて、日本人のもつ偉大な精神力が成り立たせているのである。

日本人労働者は熟練しており、非常に勤勉である。さらに、彼らは絶えず目的意識をもって自ら進んで動き、グループの中で自分が果たさなければならない役割を常に意識しながら働いている。

さらに、日本人は非常に親切で、誠実で、温かく、ホスピタリティーに満ちている。このことは、私自身が来日以来ずっと感じていたことだ。合宿セミナーでのスポーツ交流会やディスカッション、鳥取県でのホームステイを通して、素晴らしい人々に出会うことができた。

日本人の特性は、新しい関係や信頼を築く際の贈答の習慣にも表れている。日本で、私は毎日のように贈り物をいただき、毎日が特別な日であるかのように感じられた。インドネシアでは、家族や友達から贈り物をもらうのは、結婚式やハリ・ラヤ（イスラム教徒にとって１カ月にわたる断食を終えた後の特別な日）等の特別な日だけである。しかし日本では、一年中贈り物をし、お互いの人間関係を円滑にする。何も言わず、何もメッセージもつけないで、私に贈り物をくれた日本人もいた。つまり、日本におけるビジネスや仕事上の人間関係は、書面上での契約よりもはるかに無言の信頼関係によるところが大きいからなのであろう。

もし、あなたが日本での仕事を円滑に進めたいと思うのならば、自らが誠実で頼りになる存在であることを証明しなければならないのである。

## ■アジア

## ■マレイシア

### ふたつの国、ひとつの心

カイロル・アリフィン
（経営Aグループ）

私は、青年招へい事業の参加者に選ばれてたいへん幸運だった。1998年５月６日から６月２日までの、この日出づる国、日本での経験は、私たち参加青年一人一人にとって忘れられないものとなった。オリエンテーション、日本語学習、ホームステイ等、きちんと整えられた各プログラムで、私たちは価値ある多くの経験をし、それぞれの心の片隅に様々な影響を及ぼした。

お互いの文化や習慣を学びながら意見の交換をし、日本とマレイシア両国の青年たちが密接な関係を育むという、このプログラムの目的は達成され、成功だったと思う。

その中で、ホームステイが最も成功したと思われる。他のプログラムが成功しなかったという意味ではなく、ホームステイは各青年にとって、日本に新しい家族が出来たという点において、である。

将来のこの青年招へい事業のために提案がある。

１週間の共通プログラムは私には長く感じられた。１カ月の日本滞在にあたって私たちは、５日間のオリエンテーションをマレイシアで受けてきているのだから、これを２、３日にして、たとえばスポーツやレクリエーションなどにしてはいかがだろうか。

この青年招へい事業は、両国の関係のためにも、またここで築かれた関係が永遠に続くように、今後とも続けてほしいと思う。

### 価値ある経験

ハリマ・ピンティ・イスマイル
（教育グループ）

私たちにとって、青年招へい事業での経験はとても意味のあるユニークで楽しいものだった。それは、私たちが、日本の文化や生活、風習を知り、理解できたからだ。そして、多くの分野で成功を成し遂げた日本の姿を目にすることもできた。きめ細やかな

もてなし、気さくで友好的な態度、知的な会話が、私たちを意見交換や交流に引き込む原動力となった。

幼稚園から大学までの学校訪問では、効果的な授業の実施方法と管理、そのために必要な施設などの有益な情報を得ることができ、有意義なプログラムだった。

広島では、悲しむべき歴史、人間性と平和の意味を再認識させてくれた。そのほかにも、美しく個性的な街を訪れたことは、忘れられない思い出だ。

ホームステイは全プログラム中でハイライトともいえる、心に残る経験だった。たった3日間だったが、日本の家族と生活を共にすることで、日本人の精神や生活習慣などをより近くに感じることができた。この経験は一生涯忘れないだろう。

宗教、言語、そして文化や習慣の違いは、私たちと日本の青年の関係にとって何も障害とはならない。この青年招へい事業で得たすべての経験は、私たちにとって計り知れない価値を持った大きな〝おみやげ〟だ。

## 日本での経験

イクマル・ヒシャン・モハマド・タジュディン
(ASEAN混成 行政グループ)

日本滞在中に、私たちは様々なことを見聞し、体験することができた。特に、行政分野については、中央と地方の行政制度の枠組みについて学ぶことができ、帰国後、それぞれの組織で活かすことができると思われる。また、チームワークについても学び、様々な方法で講義や意見交換の場を最大限に活用した。

合宿セミナーでは、日本青年とひとつ屋根の下で寝食を共にし、和やかで楽しい雰囲気の中で活発な議論を行い、多くの貴重な意見や観点を知ることができた。

様々な体験の中でも、苦労したのが日本語学習だが、帰国後、覚えたての日本語で友人を驚かせたいと思う。

もうひとつ忘れられない思い出となったのは、ホームステイだ。短い期間だったが、日本人になったかのような気分を味わい、とても楽しく、そのため、その後の別れはとても辛いものになった。

広島を訪問し、美しい景色を見るだけでなく、日出づる国の歴史についても学んだ。この研修旅行を企画・運営してくださった関係者の皆様には改めてお礼を申し上げたい。皆様が私たちの国を訪れる機会があったら、ぜひこのお返しをさせていただきたいと思う。どうもありがとうございました。

## ホームステイ

マストル・マスリ
(経営Bグループ)

時計が午前3時をさしていた。3日間のホームステイで疲れていたけれど、眠れなかった。ホストファミリーの家でのことを思い出していたのだ。

ホームステイは、一生忘れられない思い出になるだろう。日本家庭での滞在は、私が想像していたものとはずいぶん違っていた。常に私の頭に浮かんでいたことは、滞在中に経験するであろうお風呂のことであった。私はお風呂に入ったことがなかったからだ。いろいろな疑問や不安が私の中に生じた。

初日は、お母さんが家族の友人と共に私の歓迎パーティーを開き、翌日はボウリングとショッピングに誘ってくれた。そして昼食の時間になって、あるレストランで食事をすることにした。その時私は、お母さんの気持ちを汲んで日本語で会話をしたために、たいへんおかしなことが起きてしまった。というのは、私が日本語で次のように注文したからだ。

「ジュース、ごはん、サラダ」、というふうに。

レストランのウエイトレスが私に何か質問したので、私は分かったという意味で、ただうなずいてみせた。ところが、注文の品が届き、私の前に並べられたものは、驚いたことに、アイスコーヒーとてんぷらだったのである。私の言葉をウエイトレスが理解していなかったことが初めて分かった。実は、その一節はホームステイ前に暗記したものだったのである。

## 壊滅と平和の意味

ハジ・モハマッド・ロクマン・ビン・ハジ・オスマン
（農業開発グループ）

私の望みが現実のものとなった。

かつて、日出づる国が凄まじい原爆によって一瞬にして破壊され、その死とともに終わりを告げた出来事を見聞するたびに、悲しい涙が私の目ににじむ。多くの人々が訪れる国、それが日本である。

私が日本の状況について憶測していたことは、ある一部分のみは進歩しているが、他方はまだ未来への進歩からは遠く離れているということであった。しかし、コンピューター技術、農業、工業、そして学問研究等に力を注いでいる日本は、まさに自然を保護しながら未来に向けて進歩している国である。

国と社会の発展において、世界の目を通しても長所を見せる日本の重要な歴史の足跡はたくさんある。約1カ月間の訪問や研修を通して、私はそれはたくさんの知識と経験を得ることができた。

大分のホストファミリー滞在中は、肌の色は違うけれど心と感情は全く同じであったといえる。これこそが、一生涯忘れることのない生きることの意味、ということができる。

## 私の体験

サイド・アブドゥル・マリク・サイド・モハマド
（科学技術開発グループ）

人工島に建設された関西新空港は、はっきりと日本の技術と経済力を見せてくれた。クアラルンプールからの長旅だったが、私は疲れていなかった。ずっと日本に来るのを夢見ていたが、午前7時26分、JAL722便が着陸した時、私の人生の新しいページがめくられた。

たいへん暑かったが、日本と日本人についての興味は失わなかった。

「はじめまして」。最初に覚えた日本語は美しかったが、日本語を学ぶのは楽ではなかった。食事は、早くから気づいていたが、私にとって最大の問題だった。たとえハラルミートが出されたとしても。

交通網。特に電車は素晴らしかった。新幹線に乗ったのは、とても楽しい思い出だ。マレイシアにも新幹線があればよかったのに、と思った。

ホームステイを経験して、日本の家族、文化、食事、日常生活について理解を深めた。

広島はかつて原爆で破壊された都市だが、今ある美しい川と風景は私を魅了し、一目で好きになってしまった。

最後に、この青年招へい事業はJICAと豊川市国際交流協会の双方によってうまく実施されたと思う。ホームステイの直後に広島視察を持ってきたことで、その目的はよりはっきりとし、私たちはそれを十分に理解することができた。

■アジア

■フィリピン

## 日本の1カ月

エマ・ルース・B・クエバス
(ASEAN涅成 保健医療グループ)

日出づる国、日本での1カ月の友好と理解の旅は、興奮と不安と希望で始まった。ブルネイ、インドネシア、マレイシア、フィリピン、シンガポール、タイのASEAN 6カ国からの熱意あふれる30人の青年は、日本の文化と保健医療を垣間見る栄光を手にした。梅雨冷えでさえも、私たちの熱意をそぐことはできない。コミュニケーションギャップと戦いながら、私たちは、日本各地を訪問した。受け入れの方々は、私たちの拙い日本語に喜びながら、私たちの短い訪問に理解を示してくれた。

この体験は、まぎれもなく、私たちの心に一生消えることのない思い出となるだろう。生き生きとした各プログラム活動、大阪、東京、前橋、広島、そして宮島の街並みや観光地、深夜に及んだ討論、心のこもった食事、群馬県知事、前橋市長への表敬訪問、ホームステイ、これらをどうして忘れられよう。ふくよかなブルネイ青年、好奇心旺盛のインドネシアの青年、温かなマレイシアの青年、時間厳守で頼もしいフィリピン青年、ショッピングが好きなシンガポール青年、そして愛らしいネコのようなタイの青年。そんな私たちの中に生まれた友情。私たちの保護者、家族、友人でもあるコーディネーターたちの助けが、私たちの日本滞在を思い出深いものにしてくれた。

私たちは、日本とASEANの国々の理解を深めるという目的を達成して、プログラムを終了する。日本で学んだことを各々の国での医療活動に役立て、ここで育んだ友情が絶えることのないことを望む。

サヨウナラ　トモダチ　マタ　アイマショウ
ダイジョウブ　コレデオワリジャナイ
ハナレテイテモ　ワタシノココロハ
アナタト　イッショ
With you, my friend, with you.

## 日本に対する考察と印象

ジョーンズ・トリビアーナ・モルコ
(経済Aグループ)

日本以外の地で暮らす者は、日本に対してステレオタイプのイメージをもっている。

日本は先進国であり、その技術は最先端のものであり、国民は勤勉で、礼儀正しく、社会的体面に対して高い意識をもっている（例えば、公職にある者は、市民や国民のための義務を果たせなかった時、命をかけてその責任をとる、など）。

これが、一般外国人の従来からの日本観であり、日本人に対するイメージだ。そして、私の日本に対する基本的な概念でもあった。

実際に日本に来て、このような概念が本質的には真実であることを発見した。しかし、驚くことがあった。都市部でも地方でも、外に出かけるたびに、人々がより安全に行動できるように考案された優れた道具などを目にしたのだ。私たちがフィリピンでは普段見過ごしがちな小さなものまで、すべてのものに対して気配りをする日本人の考え方に驚嘆した。この、日本人の技術革新への姿勢こそが、規則正しく仕事を行う習慣とともに日本の急速な高度経済成長の核を成したのだろう。

日本人の礼儀正しさは私を深く魅了した。私の頭の中は45度のお辞儀のイメージでいっぱいだ。ホームステイの初日の夜の光景を私は決して忘れることはないだろう。就寝前の挨拶をするためにホストファミリーの両親と娘さんが私の部屋となった和室の襖をノックした。そして、「おやすみなさい」と言って、一斉にお辞儀をした。このしぐさは、親密さではなく、距離と敬意を示していた。私は非常に感動したのだ。

このようなことが日本人の独特の特徴を形作っている。しかし私は、1カ月の日本滞在により個人的なレベルで日本人を知り、新たな発見ができたことをうれしく思う。私が出会った日本人は、温かく、友好的で、ユーモアのセンスも備え、すぐに打ち解けられるタイプの人々だった。私のホストファミリーは特に温かくもてなしてくれた。また、日本青年が、現代的な外見をもちながらも、日常の問題のみならず、環境や国際情勢の中での日本の役割等の重要な

問題に関心があるのを知り、うれしかった。これらの問題では、世界中の協力と理解が必要である。幸運にも、日本政府と国民は国際交流を高く評価している。結局、強調されなければならないのは、違いではなく私たちの共通の熱意であると思う。

## 至高の驚き

ヘルミニア・R・カリンガル
ロムロ・D・コンデ
ジョナサン・L・ガリンデズ
(農業グループ)

青年招へい事業に参加できて、生涯忘れられない素晴らしい思い出を手に入れることができた。

ホームステイを通して、日本の人々とより親密になることができた。短い期間だったが、ホストファミリーは親切に温かく迎え入れてくれ、愛する家族と離れて寂しい私の気持ちを和ませてくれた。

プログラムが進むにつれ、日本の友達が増えていった。意見を交換し、冗談を言い合い、恋愛について語り合う機会もあり、風化することのない友情を築いた。

日本滞在中は一日一日が特別なものだった。特に、自分でも想像ができなかった、わくわくした瞬間があった。石川県で開催された1998年度全国農業青年交換大会でのパーティーは、日本の皇太子ご夫妻のご臨席の栄誉を賜った。おふたりがご退席される際、そばをお通りになり、皇太子殿下が私の前で振り返られ、「フィリピンの方ですか」と質問されたのだ。全く予想もしなかったので、その瞬間緊張して、床に倒れそうになった。幸いにもすぐに平静を取り戻すことができ、真っ直ぐに立って堂々と「はい、殿下、私はフィリピン人です」と答え、その後、短い会話を交わした。

日本の皇室の方と話ができるなど、考えもしなかったことだった。しかも、皇太子ご夫妻にお会いできるということなど、思いもよらなかった。

フィリピンに帰ったら、興味深い話がたくさんある。皇太子ご夫妻との特別な瞬間を、友達、親戚、そしてまず妻や娘と分かち合いたいと思う。私の娘が成年に達した時、私のように日本を訪れる機会があり、私自身が得た以上の経験ができればいいと思う。かなうことのない夢だろうが、皇居で皇室の方と晩さんを共にする、というのはいかがだろう。でも、将来、何が起こるか分からないから。

## 橋を架ける

マリア・アビゲイル・カルピオ
(ASEAN混成 経済2グループ)

私たちの日本滞在は、お互いの違いを理解し、それを乗り越える橋を架ける旅、そして互いに連帯できる何かを求める旅であったといえる。

私たちはたくさんの橋を架け、それを渡って、私たちが心から称賛する、生産的で効率的な日本の人々の暮らしぶりを理解しようと努めた。そしてそれは、笑顔と温かな心で私たちを迎えてくれた、ホストファミリーや日本の友人たちのお陰で、たいへん楽しい体験となった。

また私たちは、日本各地を訪問し、人々と接して、より一層の歴史理解と正当な文化の評価が将来の日本のために重要であると、多くの日本人が考えていることを知った。

日本滞在中、私たちはいつも、言葉と文化の違いを超えて橋を架けることを心がけた。そして私たちは、自分自身のため、家族のため、国のため、世界のために連帯できることを発見した。

## 日本：私たちの故郷

エマヌエル・ジェームズ・マニー・P・パッタガン
(教育グループ)

私たちの心から流れ出る思いのいくつかを日本の人々と分かち合いたいと思う。

まず何よりも、青年招へい事業を可能にした日本の担当者の皆様のご尽力に感謝したい。JICAのお陰で、私たちは、日本文化についての洞察、価値、技術、そして知識を深めるという貴重な体験をすることができた。私たちを受け入れてくださった日本とフィリピンとのよりよい友好関係が促進されるものと信じてやまない。

私たちのグループのメンバーは、このプログラムについて次のような言葉を寄せている。

優れている、心の深奥への探究、思い出深い、壮観、意義深い、ダイナミック、簡潔、非常に興味深い、人生を与えてくれるよう、素晴らしい、印象深い、スゴイ、等々。

これらすべて、そしてそれ以上のものを実現させたのは、日本の人々の愛、友情、そして寛容さである。

私たちはフィリピンに帰ったら、人生でただ一度、この日本を訪れたことを誇らしげに言うだろう。日本：私たちが天国、楽園、アジアの先進国、日出づる国と呼んだ国は、"私たちの故郷"であったし、今後もそうあり続けるだろう、と。

すべての美しい思い出をどうもありがとうございました。

## 偶然の発見

アンジェリカ・パロニ・バリノ
レイシェル・マリ・オルテガ・ヘピア
マ・テレサ・アポストル・マクギガド
(社会開発グループ)

知らない土地に行く場合、たいてい先入観をもってしまいがちである。私たちが日本に来る前に心に抱いていたのは、最先端技術と経済大国としての名声を可能にした休むことのない経済活動をしている日本の姿だった。その強い経済的欲求により、伝統的な慣習、価値観などは、近代化の中で失われてしまったに違いない、と思い込んでいた。

しかし、その考えは間違いだった。私たちが目の当たりにしたのは、時を経て継承されてきた伝統や美しい自然だった。日本の家族、社会構造、日本人の考え方、世界観などを知るにつれ、その中には、日本を日本たらしめた伝統が生き続けていることに気がついたのである。調和を重んじる日本では、古いものも修復・保存され、古いものと新しいものの融和に成功していた。

それにもまして忘れられないのは、私たちの日本滞在を有意義かつ楽しいものにしてくださった人々の存在である。日本で出会った人々の温かさ、寛容さ、親切、思いやりは、私たちの心の中に深く刻み付けられた。

日本への旅では、相互理解と友情が育まれただけでなく、強い絆が築かれた。今や、私たちにとって第二の故郷となった日本へ、いつか帰って来ることができますように。

## 日本での経験

ローレンス・ネルソン・グェバラ
(経済8グループ)

私たちにとって日本での4週間は、寒さ、スムーズな交通、生で食べる食事、遠くのディスカウントショップや100円ショップにお買い得品を探し求める、という経験をした旅だった。時間は短かったが、プログラムはすべて楽しく、思い出深く、成功だった。

日本で最初の数日間、日本語を学んだ。それは、日本語を話し、日本の文化を知ることにより日本人と打ち解ける、というためには有意義であった。

東京では、有名な観光地を訪れるだけでなく、日本人の日常の仕事ぶりなどを垣間見ることができた。

富士青少年センターでは、日本の青年と友情の絆を結ぶことができた。"分かち合い"という言葉が、3日間の合宿セミナーを言い表すには最適であろう。日本青年は、フィリピンの青年はとてもロマンティックで歌と踊りが好きだということを知っただろうし、私たちは他の人をあまり気にしないで皆と一緒にお風呂に入る方法を学んだ。寒かったが、雪の降っている光景を見られて、うれしかった。雪合戦をしたり、写真をたくさん撮った。

千葉は、私たちが訪れた中で最高の場所だった。東京ディズニーランドがあるからではなく、千葉県の人々が私たちをとても温かく歓迎してくださったからだ。ホームステイプログラムは、グループから離れるので、初めは緊張したが、心温まるアットホームな3日間で、フィリピンの自分の家族を思い出させるものだった。

最後の訪問先の広島では、日本の歴史の一部分に触れ、灰燼から奇跡的な復興を成し遂げ、核兵器廃絶運動を継続している地域を見ることができた。

このプログラムが終わっても、私たちは、フィリピン人と日本人の友情は始まったばかりだと信じている。フィリピンに戻ったら、私たちは日本の訪問した場所や日本の友人をいつも思い出すだろう。

どうもありがとうございました。さようなら。

## ■アジア

## ■シンガポール

### 日本探訪

ウィンストン・カン
(経済Aグループ)

5月20日、青年招へい事業で私たちは成田空港に到着し、1カ月の日本探検が始まった。日出づる国、日本は、単一民族国家で閉ざされた社会、人々が日本語しか話さない国として長い間知られてきた。それだけに私たちは、来日直前の日本語特訓で覚えた片言の日本語でこの異国の地で無事に過ごせるのか、まったく分からなかった。当然、私たちは不安だったが、東京国際研修センターでコーディネーターに英語で温かく迎えられた時に、その不安は一掃された。

体験的日本語学習と神奈川県で行われた合宿セミナーは、日本とシンガポールの青年の意見交換の場として、たいへん素晴らしい機会となった。これらを通じて、互いの言語、伝統、文化についての理解を深めることができた。また、日本の青年の多くが、簡単な英語で会話をすることができるということに気づき、驚いた。そして、多くの友情も育まれ、私たちはこの友情をシンガポールに持ち帰ることを約束した。

数々の講義を通じて、日本の社会経済システムの理解を深めることができ、日本とシンガポールの間には共通点があることも分かった。まず、両国とも21世紀には、高齢化社会という問題を抱え、両国の政治家は、経済的・社会的な影響も考慮して、慎重にこの問題に取り組まなければならないだろう。次に、日本もシンガポールも、研究開発活動を通して独自の技術を開発していかなければならない。過去に両国の発展を可能にしてきた輸入技術だけでは、もはや21世紀の挑戦に対して十分とはいえない。

プログラムの中で最も緊張するのは、日本の家庭で過ごすホームステイである。私たちの多くは、ほんの1週間前に出会った人たちの家に滞在することになったが、それはまた、たいへん新鮮な経験でもあった。少しでも快適に過ごせるように、直前まで日本語の練習に励む人もいた。幸運なことに、受け入れ家庭の中には、若干の英語を話すことができる人もいた。2日後には、私たちの多くは、受け入れ家庭の人々ととても仲良くなっていた。

また、様々な会社訪問では、まさに新境地が開かれた思いがした。私たちは、まだ市場に出ていない新製品を見る機会にも恵まれた。日本がアジア有数のハイテク立国であるにもかかわらず、例えば茶道が今でも昔のとおりに行われるなど、自国の伝統も守り続けていることは、興味深かった。

広島は痛ましい過去をもつ都市である。広島平和記念公園や資料館では、原子爆弾によって受けた被害を目の当たりにした。平和記念公園は、平和を守り続けたいという広島の人々の願いの結晶であり、広島の悲劇を繰り返さないために世界に向かって絶え間なく鳴らす警鐘の役割を果たし続けるだろう。

私たちは、青年招へい事業を主催してくださったJICA、また企画・実施に携わった多くの団体に対して感謝を申し上げたい。また、私たちのグループのコーディネーター2人にも感謝したい。2人は私たちの日本滞在中ずっと〝お守り〟をしてくれた。たいへん楽しい日々を過ごした今、お別れを言うのは本当に辛いが、いつかまた日本を訪問し、日本の友人に再会できる日が来ることを心から願いたい。

### 日出づる国

経済Bグループ全員
(経済Bグループ)

私たちが千歳空港に到着した時、千歳市民が心温まる歓迎をしてくださり、とても感激した。日本人が感情をあまり外に出さず、控えめだというのは、当たっていないと感じた。千歳市滞在中に聞いた市の概要説明で、市の近年の発達の様子がよく分かり、千歳科学技術大学や様々な施設に特に力を入れて投資するなどの大胆な取り組みにとても強い印象を受けた。

また、千歳市の地域振興策の中で、環境を重視している点も、日本はすごいという思いを強くした。環境への配慮がよくなされているため、市民は質の高い生活を送っているようだ。

日本の人々と私たちの間には言葉の壁があるが、合宿セミナーやホームステイを通じての交流は、日本の文化や日本人の考え方を知る素晴らしい機会と

なった。

日本の先端技術（特にNTTやソニーマルチメディアワールドの訪問）にも、感心した。この分野で、シンガポールと日本が協力できる機会があってほしいと思う。

日本の人たちが温かく親切だったお陰で、私たちの日本での滞在は楽しく、思い出深いものとなった。

## 日本の印象

ゴー・オン・チュウ・ガブリエル・ジェラルド
（ASEAN混成 社会福祉グループ）

以前読んだガイドブックによると、日本に1日いれば一冊の本が書け、1週間いれば短いエッセイが書け、1カ月だと何も書けなくなるそうだ。

まさに今、1カ月が過ぎて、私はこの状態にある。この国、日本独自の社会が矛盾を内包しているためだ。

日本は、想像力を育てにくい学校教育と独創性の欠如を嘆く社会である。しかし同時に、ウルトラマン、ゴジラ、任天堂、たまごっち、ソニーのウォークマンを生み出した社会でもある。日本は、いたるところに、タバコ、チューインガム、温かい食べ物、冷たい飲み物、電池、カメラ、そして成人向け雑誌まで売っている自動販売機がある社会だ。けれども、列車や地下鉄の駅で、切符を回収している職員もいる。

日曜日にカトリック教会に行った時、髪を七色に染めた女性が、伝統的なベールをかぶっているのを見た。この光景が、私の日本の印象を集約している。現代的な考え方やファッションが存在する一方で、伝統的な形も失われてはいない。日本は、進歩しながらも、昔を忘れてはいない。伝統を捨ててはいない。あの教会で会った、髪を染めベールをかけた女性のように、古きと新しきを、日本の社会は統合させることができるのだ。

## 心温まる学びの旅

チャン・ユーウィー
（教育グループ）

日本に対して何の先入観もなく訪れる人はほとんどいないだろう。私自身を例にとれば、私にとって日本は単純に経済大国だった。4週間にわたる日本の滞在で、新幹線の速さから、宗教的信念とも思えるほどの時間に対する几帳面さに至るまで、その経済的成功を支えてきた日本的効率の良さの実例を、十分に見聞することができた。しかしそれだけではなく、日本人は、個性のない働き蜂ではないということもすぐに分かった。サービス産業の最前線に立つ人々のさりげない礼儀正しさと親切、また、どのような仕事にも誇りと喜びをもっていることは、私にとって最も印象深いものだった。顧客のひとりとして、かつてこれほどまでに、王様のような良い気分になったことはなく、その結果、すっかり気前がいい消費者となっていた。

日本の清潔さにも驚いた。その清潔さは、公衆道徳のよさにあるのだろう。身障者に対しても、歩道から駅に至るまで、あらゆるところに配慮がされている。日本人は、お互いが緊密に結ばれていて、特に集団行動が強調される学校において、その絆は強化される。

ホームステイを通じて、私は個人としての日本人を知り、人々の寛大さ、親切を心から感じた。しかしながら、この経験はまた、へとへとに疲れるほどの日本人の仕事の量の多さが家庭生活に及ぼす影響を知る機会ともなった。私のホストファミリーは英語が話せたので意思の疎通がうまくできたが、博物館や公共の場所には英語をもっと使って、外国人が日本について理解しやすいような工夫をされることを希望する。

私のグループはこの青年招へい事業に参加して、多くのものを得ることができたと確信する。私たちは、多くの素晴らしい思い出と、新しい友人たちを胸に、日本を後にする。

## 日本、日本人、日本文化を思って

チン・イーリン
(社会開発グループ)

私は来日前、日本といわれて連想するものは、桜と東京ディズニーランドだった。しかし今私は、講義や日本人との交流によってより深く理解した日本の歴史や文化について数々の忘れ難い思い出とともに、シンガポールに持ち帰ろうとしている。

山梨で行われた合宿セミナーでは、日本の青年たちと出会い、現状について意見を交わした。そこでの討論会で、最近の青年の事情や彼らの興味、不安等を知ることができた。青年の組織活動に関しての意見も交わされた。多くの新しい友人もでき、この遠距離友情を今後もぜひ維持したいものだ。

ホームステイも私たちが楽しみにしていたプログラムの一つで、とても豊かで実りある経験だった。ホストファミリーはもてなし上手で、私たちの滞在を心地よく楽しいものにしてくれ、日本家庭の週末の雰囲気を味わうことができた。いくつかの家族が一緒になって私たちのために出し物を演じてくれた時に、私たちは皆の誠実さに胸が熱くなり、私たちの沖縄滞在がより思い出深いものになった。そして、いろいろなことを可能にしてくれたことに感謝した。

茶道と生け花はまったく新しい経験だった。生け花の起源の説明だけでなく、実際に体験する機会もあり、茶道の儀式を見学した。私たちの何人かはこのために特別に浴衣を着用した。この経験は、ずっと忘れないだろう。

沖縄の平和祈念資料館と長崎の原爆資料館を見学するまでは、第2次世界大戦の日本への影響を理解できないでいた。このような悲惨な出来事は、どこの国であろうが、何人に対してであろうが、絶対に繰り返してはいけない。私たちは、平和と協調を世界に知らしめることの重要性を改めて実感した。

最後に、この青年招へい事業は実り多いものであった。"おみやげ"だけでなく、日本と日本人に対する温かい思い出も持ち帰ることができる。28日間で培われた友情がいつか花開き、実になることを願って、私の言葉としたい。

## ■アジア

## ■タイ

## 素晴らしい経験

チャエーム・パッチャニー
(ASEAN混成 環境保全グループ)

今回のプログラムは本当に素晴らしいものだった。多くの友を得ることができ、さらに日本について、そして日本人や日本の環境対策について知ることができた。私が日本に到着して最初に目を引かれた色は、グリーンだった。大阪国際センターへ向かう途中、たくさんの樹木が目に入り、日本が環境保全に成功しているのがよく分かった。東京湾の埋め立て地を訪れた時、廃棄物処理がとても上手に遂行されているのを見ることができた。さらに、数々の講義や施設訪問等によって、環境保全についての知識を一層深めることができた。

日本の人はとても親しみやすく、温かく迎えてくれた。ホームステイプログラムでは、ホストファミリーが摩周湖に連れて行ってくれた。摩周湖はいつも霧がかかっていると聞かされていたが、空は青く晴れ渡っていて、私はラッキーだった。私はたくさん写真を撮った。同じ国立公園にある硫黄山は、遠くから見ると雪で覆われているように見えたが、近づいてみるとそれは地面から出ている硫黄ガスで、強烈な臭いがした。

釧路では、生の魚をおいしいと思えたし、すき焼きを生卵につけて食べることも覚えた。釧路市の防災センターでは、生まれて初めて、シミュレーターで地震の揺れを経験し、また生け花や茶道も学ぶ機会を得た。日本人が今日でもずっと伝統文化を伝えていることが分かった。

私はこのプログラムを通して、友情や環境保全に関しての知識を得たばかりでなく、他の国の文化や生活様式に関してのより一層の理解を得ることができたと思う。

## 長所と欠点を学んだ経験

アンパイ・ブンヤシッピチャイ
(経済Aグループ)

まず、JICA、関係団体の皆様、そしてコーディネーターの方々に、心からお礼を申し上げたいと思う。

私たちは、青年招へい事業で日本を訪れるというたいへん貴重な機会を得た。多種多様な生活様式や価値観にふれて、視野を広げることができた。

高度に発展した先端技術と拡大した経済をもつ社会でありながら、古きよき伝統や木々の緑と見事に調和した日本。しかし、そのようななかでも、時間に追われる仕事一辺倒の生活からくるストレスなど、近代化と既存の文化・風習のずれから問題が起こることも、私たちは学んだ。

日本滞在の期間は短かったが、できるだけ多くのことを吸収しようと努めた。

特に感動したのは、日本の人々の非常に温かな歓迎と、きめの細かいもてなし、心遣いをしてくれたことだ。また、日本の方々がタイの文化、タイ人について、誠実に一生懸命理解しようとしてくれたことこそが、これから様々な分野で友情の架け橋を築く大切な土台となるものだと思う。

## たわわに実る稲穂と潤いの雨水

エーラワン・タップリー
(経済Bグループ)

"友情"という言葉は、青年招へい事業の基本趣旨であり、この事業は、広大な地球を小さく見せてしまう。

私たちは青年招へい事業に参加するために何カ月もの間、パフォーマンスの練習、おみやげや私物の用意をしたりした。やがて時が来て、私たち経済Bグループの日本での新しい生活が始まった。タイを遠く離れ、友人との新しい出会い、意見交換など、新しく見るものが待っている。成田空港に着いた時、この日本には何があるのか、ここに住む人々はどんな人たちなのだろうか、という疑問をもった。おそらく、グループの皆も私と同じ気持ちだったと思う。

実際に日本の人々と一緒に暮らし、触れ合い、意見を交わし、いろいろな物事を見たり聞いたりする中で、日本の人々は皆、私たちタイ人に対して、誠心誠意接してくれた。

また、ホームステイという貴重な機会を得て、日本の青年や多くの人たちと意見や考え方を語り合うことができた。どの人も私たちに親しく接してくれ、短い時間ではあったが、忘れることのできない貴重な思い出ができた。私たち皆には、新しいお父さん、お母さん、友人が、この日本にいるのだ。

私たちが誇りに思うのは、日本の人たちが私たちのことを知ってくれたこと、タイ、そしてタイ人に強い絆ができたことだ。ある人はタイに旅行に行きたい、ハネムーンに行きたい、と言ってくれたが、私たちも同じだ。もし機会があれば、日本にまた帰って来たい、と思っている。私たちにとって、日本は、愛情と美しい友情にあふれた国。出会いがあれば、当然別れがある。私たちは、お互いに遠く離れたところで暮らしているが、互いを思い合う絆があれば、距離は問題ではない。心と心が繋がっていれば、友情は長く長く続くものだと思っている。

日本とタイの永い友情
いくつもの時代を超えて子孫が伝えてきた
心の中に桜の花が咲く
日本もタイもそれぞれの文化を守ってきた
たとえるならタイはたわわに実る稲穂
日本は潤いを与える雨水
稲、水がなければ人は困り
それはそれぞれ人々に幸せをもたらす

## 友情と思い出

プーンサップ・サープマー
(農業グループ)

私たちは、胸を躍らせ、また一抹の不安も抱きながら、海を越え空を飛び、遠い国からやってきた。日本の青年たちと友情が結べるか、と皆の期待は大きく膨らんでいた。受け入れてもらえるのかどうか、不安で胸がいっぱいだった。

しかしまたたく間に友情という絆は、東京を超え岡山県の小さな落合町まで広がった。

私は、日本人とどうしても話がしたくて、おかし

な日本語だったかもしれないが、できるだけ日本語を使って気持ちを伝えようとした。

待望のホームステイでは、お父さん、お母さんをはじめ、皆が本当に親身になってお世話してくださり、感謝している。

時間というのは、水のように流れていってしまうが、私たちが楽しく過ごした時間も水のように流れていってしまうのだろうか。いや、この楽しかったひとときは、日本とタイの間に、水では流せないような大きな友情を育んだ。それと同時に、知識と英知を与えてくれた。将来私たちが国を背負っていく時に、きっと道しるべになるだろう。

今まで会った数多くの人々への感謝と感激はいつまでも残るだろう。

## タイ人より心を込めて

ラーワン・インタララック
(教育グループ)

青年招へい事業に参加する前の、私の日本に対する印象は、日本は技術が進歩していて、国民は秩序正しく、組織を作ることに長けている国といわれていることから生まれたイメージや知識だけだった。

このような話ばかりを聞いていると、日本人は物質主義であると思い込んでしまう。しかし、今回このプログラムに参加して、このような考えや感情は変化した。私たちは、日本は進歩した技術を、社会、教育、産業、日常生活の発展のために使うだけでなく、一方で美しい自然や木々の緑を保存していることも知った。

競争の激しい慌ただしい生活の中でも、日本人は国民としての責任と誇りをもって、社会の秩序を守り、街の清潔さを保っている。美しい着物を着たしとやかな日本女性たちも、組織の中で男性と対等に力を発揮している。

決して好調ではない経済の中でも、日本人は微笑みと温かさと誠意をもって、私たちを迎え入れてくださった。これらのことは、日本人が持っている近代的技術と伝統的意識をうまく融合させていく能力であると感じさせてくれた。

日本人の日常の生活に直接触れる機会を私たちに与えてくれた勇気を称賛したい。それは、真の友情と真の相互理解のための第一歩となるものだからである。

## タイの友情

ソムポット・クワーンゲーオ
(社会開発グループ)

今回、"青年招へい事業"により、日本を訪問する機会に恵まれ、感謝している。私たち社会開発グループのメンバーのほとんどは、日本に来るのが初めてなので、成田空港から宿泊先の東京国際研修センター(TIC)までの道中は、見るもの聞くもの、すべて驚きだった。

TICは近代的で便利な設備が整っていた。そこで私たちは、日本語の勉強をしたり、経済、社会開発や日本人の文化と意識についていろいろ学ぶ機会があった。それと同時に、大都会である東京を、ドキドキワクワクしながら見学した。

また、埼玉、大阪、広島と地方都市にも行き、日本人ボランティアやホストファミリーの方々に温かく迎えていただき、本当に感激した。こうした交流によって、日本人のものの考え方や、習慣が分かってきたように思う。私たちは素晴らしい経験をさせていただいた。この感謝の気持ちは、これからタイに戻って、草の根から広げたいきたいと思う。

関係者の皆さん、ありがとうございました。

■アジア

■バングラデシュ

## 日本人――天使かロボットか

リバ・シャフリアー
(公務員グループ)

私たちは、1998年11月18日に来日した。コーディネーターの一人が、ダッカまで迎えに来てくれていた。

来日してすぐに、日本人が組織力に優れていること、時間に厳格なこと、職務に忠実なこと、そして親しみやすい人々であることを知った。

最初は日本でのスケジュールに追いつくことが困難だった。しかし、よい雰囲気を作っていただいたお陰で、なんとか協力することができた。プログラムは素晴らしいものだった。私たちは、日本語学習に始まり、著名な講師による講義で、日本人のライフスタイル、公務員制度、社会福祉や政治について、退屈することなく楽しく学び、日本に関する全体像をつかむことができた。また、様々な福祉施設を視察することで、多くの専門知識を得ることもできた。このことは私たちが帰国した後、各自の政策決定において有益なことだろう。

大阪の国立民族学博物館では、様々な民族の進化を知り、広島の平和記念公園や平和記念資料館では、原爆の恐ろしさを学んだ。

滞在中の食事も多種多様で、どれもたいへんおいしくいただいた。こんな機会は二度とやってこないだろう。

合宿セミナーでは、日本人青年と意見を交換し、私たち自身の日本理解に役立った。

日本人の生活を理解するのに最も画期的なプログラムは、ホームステイだった。

しかしながら、私は時々考えてしまった。

〝日本人は人間か、それとも機械なのか〟

なぜならば、日本人のように勤勉で、時間を厳守し、職務に忠実であることは、人間にとって不可能なことだと思う。それゆえ、日本人は人間というよりロボットなのではないか、とふと思うことがあったのだ。

■アジア

■ブータン

## 日出づる国を訪ねて

ニマ・ツェリン
(教育グループ)

私たちブータン人5人が青年招へい事業に参加できたことは、大きな喜びだ。

日本のいろいろな場所を訪問し、数々の人々との出会いがあった27日間は、私たちが日本を学んだ日々であった。日本の義務教育制度は、この国の将来を担う青年の育成にいかに取り組んでいるかの現れだ。日本の人々は、社交的で辛抱強く時間を守り、しっかりした道徳をもち、自立の規範に則って生活している。

世界で最も開発された国であるにもかかわらず、伝統文化を生き生きと保持し続けている国、日本。江戸東京博物館や平和記念資料館を訪れて、第2次世界大戦後、日本人が結束して今の発展を成し遂げた経緯を知った。

日本がますます繁栄しますように。

## ■アジア

## ■インド

### 知られた日本の、知られざるインド人

サビタブラタ・マンダル
（教育グループ）

あなたは知らないかもしれない
私は知られざるインド人
でも私はあなたを知っている
いつかもう分からないほどの昔から

文明があなたの国に押し寄せた時
私たちも同じように感じた
誰も知らないインドの村で
あなたが瓦礫の中から立ち上がった時も
私たちはともに喜びの涙を流した

あらゆる場所のあらゆるものが
私に日本を語った
うわさに聞いた建築物
実際目にした自動車
最高のエレクトロニクス
でも、私は素晴らしいことを得た
それは忘れられないこと
伝えなければならないこと
コンクリートにとらえられた人々は
一秒たりとも無駄にしない

彼らは私たちと少しだけ話をした
でも私のことはすべて聞いた

JICAのベルが鳴る
もう帰らなければ
でも、立ち去る前にあなたを呼ぼう
おお、文明よ
どうか違いにとらわれないでほしい
同じ人間として、似ているところを教えてほしい
そして私たちは
緑輝く、美しい世界を築いて行こう

## ■アジア

## ■モルディヴ

### 日本の印象

ナズィマ・シャミーン
（教育グループ）

短い期間の滞在ではあったが、世界の中の先進国である日本の印象は素晴らしく、夢のようだった。

日本人の心のこもったもてなしは、決して忘れないだろう。日本の人々は、人がよく親切だった。そして、お互いをとても尊敬し合っている。生活様式は、他の国に比べて特異なところがあるが、なんでもきっちり行われ、それがシステムとして機能している。

教育制度も組織立っていて、それが実際に行われている。日本で得たこれらの多くの知識をモルディヴの同僚に伝えようと思う。

日本人との出会いの数々は、一生心に残るだろう。皆さんの温かい歓迎に心から感謝している。

このような機会を与えていただいたことに感謝の意を表したい。またぜひ、日本を訪れることができますように。

■アジア

## ■ネパール

### 友好

ジャイ・プラカース・サハ
（理数科教員グループ）

"日出づる国"という名前で知っていた、この魅力的で美しい国、日本。その日本でいろいろな経験を得ることができた。私は日本に来る前に日本について実にたくさんのことを聞いていたが、日本に来て、聞いていた以上にいろいろ見たり体験することができた。

日本に来てからは、日本の経済事情、教育状況についての情報を入手する機会に恵まれた。これはつまり、たくさんの学校や工場の視察ができたことを意味するが、さらに駒ヶ根市で2日間のホームステイをして、日本の家庭生活についても経験することができた。これ以外にも、日本滞在中に日本人の友人たちから得られた思いやりや協力も、日本国民の特長として受け取っている。

この青年招へい事業において私が得た経験が、私自身の仕事でも大いに手助けとなってくれるであろうと期待している。また、この青年招へい事業の交流で、日本とネパールの間の友好が本当により深くなっていくことを心から願っている。

■アジア

## ■パキスタン

### 夢の目的地

セイビ・ポーカリ
（女性小中高教員グループ）

日出づる国、日本、多くの人々が認める経済が発達した国、その驚くべき経済の成功は、教育の成果によるものだ。社会制度の礎としての教育が果たす役割を認識することはとても大切だ。日本は優れた教育制度を持つ最良の国の一つであり、その教育制度は、人に教育を施すだけでなく、善良な人間を形成する。日本人の成功の秘訣が「国民の識字率100パーセント」にあることは言うまでもない。日本では、すべての子供たちは6歳から15歳までの義務教育が法で定められ、教育費は無料だ。生徒たちは、コンピューター、言語、音楽、スポーツ等のあらゆる施設を利用できるのだ。教師になるためには、独自の教職課程がある。先生方は親しげにそして丁寧に生徒を指導する。このような学校によい成果をもたらすのは、教師一人一人の努力と能力の賜物だ。しかし、今日の日本では、校内暴力、いじめ、不登校といった教育の問題が存在するのも事実である。

日本は、たくさんの美しい島が点在する宮城県の松島のような名所が数多くある。"美はその心ある人の目に委ねられる"ということわざがあるが、松島は誰の目にも美しく見える。また、たくさんのミカンの木が育つ因島は地上の楽園のようだ。

もし、これらのことを夢見る人がいたら、どうぞ日本にいらしてください。

■アジア

■スリ・ランカ

## 互いの絆

メスティヤゲ・ドナ・プレマティ・シャンティ
(教育グループ)

新しい顔々、知らない土地、見慣れぬ光景
込み合った道路、異国での第一歩
母国を遠く離れて。
明るい顔々、親切そうな声
誰も皆ていねいで、品がいい。
大阪国際センター——日本での最初の我が家
くつろいで、ほっと一息……。

日本語の授業、繰り返し練習
子供の頃を思い出す。
近隣の国の仲間たちと一緒の開講式。
役立つ講義——日本のことばかり。
知識を広げるためのドアを開く。
カントリーレポート、めったにない機会。
思いを分かち合おう。

ひかり号、忘れ難い旅、ビル群、博物館。
父祖の時代へと私たちをいざなう。
人なつっこい日本人青年、深く結ばれた絆。
素晴らしく、固い友情。
いつまでも、いつまでも、続いてほしい。

東京は日本の誇り、現代生活の象徴。
どこもかしこも人だらけ。まるで蜜蜂の群れのよう。
島根、そこには素敵な思い出。
伝統、習慣、信仰、そして学校。
時に独特、時に楽しい。
さよなら、親愛なる花の国
また会いましょう、また、そして、また。

■アジア

■モンゴル

## 21世紀を間近に控えて

トゥメンツォグト・ツェヴェグミッド
(勤労青年グループ)

21世紀を間近に控えた今、JICAの招きにより、"青年招へい事業"に参加できたことをうれしく思う。

21世紀に向け、地域、国境、言葉に関係なく、あらゆる分野で緊密に協力し合い、学び合い、働き合う必要があるこの時期、このプログラムには大きな意義がある。

プログラムの中で、日本の文化、習慣、生活を知り、日本の若者たちと生活にかかわる様々な問題について意見を交わしたことは、日本とモンゴルの友好関係、相互理解、今後の協力に大きな貢献をするだろう。

短い日本滞在だったが、多くの都市を訪問したり、専門の同じ方と会い、関連施設を見学する機会にも恵まれた。

ホームステイは最も思い出深いものになった。日本の知人、友人を多く持つことができて、今後の協力関係がさらに広がることを期待している。

勤勉な日本の皆様のご健勝をお祈りするとともに、このプログラムに協力してくださった諸団体の皆様の今後の成功を願っている。

残された課題は、私たちが日本の人々が祖国を発展させてきた経験に学び、協力し合うことである。

■アジア

## ■ミャンマー

# 忘れられない思い出

アウン・ナイン・ウイン
（教育グループ）

青年招へい事業の参加青年の一人として、11月18日の朝、大阪に着いた。来日以来、数多くの初めての経験、初めて見る顔、初めて聞く名前、初めての土地に遭遇した。

いろいろ新しい経験をした中でも、私にとって一番印象深いのは、秋田で行われたホームステイだ。私のホームステイ先は、秋田市内から車で30分の天王という所だった。ホストファミリーは、会社の役員の一夫さん、会社で事務をしている恵美子さん、80歳というのにとても元気な一夫さんのお母さんのきくえさんたちがいて、家族を尊重し、お互いの面倒をよく見ていた。

一夫さんと恵美子さんに温かく迎えていただき、二言三言言葉を交わしただけで、私たちはすぐに親しい友達になった。短い滞在だったが、お互いの家族の話をしたり、日本料理やミャンマー料理を一緒に作ったり、意見交換をしたり、釣りや買い物に行ったり、観光に出かけたりした。

夜は、恵美子さんの妹夫婦も加わり、皆で作った料理を食べ、日本やミャンマーの歌や踊りに興じ、本当に忘れることのできない素晴らしい経験だった。思い出すたびに、楽しく幸せだったあの時の気持ちが蘇る。

私たちは真の友情を築くことができたと同時に、私には日本に新しい家族ができたと思っている。

この素晴らしい思い出を与えてくださったJICAとホストファミリーに心からお礼を申し上げたい。

■アジア

## ■カンボディア

# 日本での体験

クイ・サヴット
（経済グループ）

日本政府、JICA、このプログラムに関係してくださった皆さんに、今回、私たち30人を日本に招いていただいたこと、滞在中、私たちの健康に気を配り、医師が待機していてどんな時でも私たちの面倒をみてくださったことなどに、心からお礼を言いたいと思う。

28日間の滞在中、通産省やいろいろな工場の視察、東京の見学、これらができたのはすべて皆さんのお陰だ。

合宿セミナーやホームステイでは、新しい体験をし、日本の青年、日本の家族と知り合い、新しい友達、新しい家族ができた。

カンボディアと日本との文化交流もして、両国の友好関係もますます深まることだろう。

帰国後、私たちは、日本で体験したこと、見たことを、家族、友人、カンボディア国民に伝えたいと思う。

この青年招へい事業は、とても素晴らしい企画だと思う。今回の経験が、カンボディアの再建に役立つだろう。

■アジア

■ラオス

## 日本での28日間

ブンミー・スィラウォン
（農業関係公務員グループ）

青年招へい事業による28日間の日本滞在を通して、私たちはこのプログラムがたいへん有意義であるということを実感できた。かつては日本もラオスのように農業国だったのが、戦後急速に世界先端の技術大国へと発展したことを学び知り、たいへん感銘を受けた。

高知県では、ラオスの農業に将来取り入れたいハイテク技術を見ることができ、日本の農業関係者や一般の青年たちと実り多い交流の時間をもてた。また、日本人の文化、習慣、価値観についても理解が深まった。

私たちが得た今回の経験は、ラオスと日本の友好と協力関係をより深め、今後も継続的に発展させるために大いに役立つことだろう。この青年招へい事業が末永く続くことを願っている。

日本政府、JICA、JICEをはじめ、便宜を図ってくださったすべての方々に感謝したい。私たちは、この友情と協力をいつまでも大切に育てていきたいと思う。

■アジア

■ヴィエトナム

## 私の心の中にある日本

ファム・ティ・ハイン
（経済グループ）

来客を温かく迎える人々の国、日本に来ることができて、私は幸運だった。

清潔で緑が豊富で人々の心が美しい国、それが日本についての私の最初の印象だ。

私たちは、諸機関、企業、工場、景勝、文化遺産などを視察し、日本人の強さと素晴らしい能力を自分の目で確かめることができた。そして、日本人が獲得した成果に感心している。私は多くのことを学ぶことができ、貴重な思い出をつくることができた。現在、日本経済は厳しい状況に置かれていると思うが、日本は早い時期にこの困難から脱することができるだろう。日本は、世界でもトップレベルの速いスピードで着実に経済発展をした国の一つだからだ。

日本で過ごした日々を通して、私たちは共通の言葉、そして文化、心、生きがいの共通点を見つけた気がする。自分のふるさとにいるような感じも与えてもらった。皆さんの私たちと親善を図ろうとする気持ち、親切なもてなしは、ヴィエトナムで日本文化や日本語を教えてくださった時から桜の国・日本で滞在している間も、富士21クラブでの合宿セミナー、ホームステイなどすべてを通して私たちを感激させた。すべてのことが私の心の中で美しい思い出として残っている。

時は流れても私たちの友情はいつまでも続くと思っている。皆さん、どうもありがとう。そして、また会いましょう。

## 真の喜び

ファン・トン
（農業グループ）

青年招へい事業に参加する農業グループの青年にとって、1998年の晩夏に日本で過ごした日々はとりわけ意義深いものとして心に残ることだろう。

東京、和歌山、広島等の都市の名前、日本の農業

の科学技術・応用試験研究所、桜の国・日本の美しい名所旧跡、それらすべてが私たち一人一人の心の中に美しい思い出となって残っている。日本人青年との交流もホームステイ先の方々との交流も、興味深く、予想もしなかった出来事の連続だった。交流前に私たちが抱えていた、初対面であることや言葉の壁から生じる様々な不安は、交流していくうちに消えて、それに代わって親愛の情が沸いてきた。ホストファミリーと交流を重ねていくうちに、会う人たちは皆自分の親族に思え、滞在している家は自分の親族の家のような気持ちになった。

1カ月という時はあっという間に速く流れ去ったが、私たちの心の中には美しい思い出が残り、それが生きることの意義を高めるに違いない。この青年招へい事業での交流を通じ、日本とヴィエトナムの青年たちの距離は時間とともに短くなってきた。地球がますます小さく感じられるにつれ、両国の青年だけでなく世界の青年の友情の絆が一層強まり、そこで一人一人の力と知恵を出し合うことによって世界の国々の繁栄につながるだろう。

私たち一人一人は明るい未来に顔を向け、21世紀は私たちを待っている。そこで自分の夢が実現できて、初めて真の希望が達成できたといえるだろう。それが、今回のプログラムに参加した日本とヴィエトナムの青年の共通の思いだ。

## 帰るこの日に

グエン・ヴァン・タン
(公務員グループ)

明日、我が身は地平を超える
語り尽くせぬ千万の言葉を思う
まことか、夢か、苛立ち、うつろう
恋する者の、惜別の思いのように

共に学んだ時は早くも過ぎ去り
日本とヴィエトナムの言葉が熱い心に鳴り響く
若さあふれる、または白髪の恩師たち
小さきころの純粋を我に戻す

懇親の時は早くも過ぎ去り
会えば、その絆は強く深いものになる
あなたの思い出と居所を記した紙片
持ち帰ればあなたへの思いも共に帰る

福島は雪の光にきらめき
熱く赤い炎、父母の心に灯る
ここに故郷があることを心に止め
唇はふるえ、我が言葉はかすかな音になる

足を踏みしめるすべてのところに
自然の趣と愛すべき微笑みがあった
痛ましいその過去と来るべき未来
ああ、桜薫る国よ、いったい何を告げればよいのか

けれども私たちはこれから互いのために生きるのだ
やわらかな思い出は不滅の歌となるだろう
日本とヴィエトナムの青い波の和するこの太平洋
そして、それぞれの心に架かる橋

## 日本滞在の印象

チャン・ティ・キム・ロアン
(教育グループ)

日本行きが決まった。両親や友人から離れる不安が募る。

日本に着いた。近代的なモノと騒音にくらくらする。冬の寒さは厳しかったが、人々の優しさに心は温まった。このプログラムの中で、最も印象深かったのは、日本人の家庭で過ごしたホームステイだった。

ホームステイの初日の朝、私が布団の中にいると、「ロアン、ゲット・アップ！」

という呼び声が聞こえた。

その声は、私が寝坊をした時の私の母の声にそっくりだった。心地よい感覚、安堵感がこみあげ、全身がふるえる。私は温かな家庭の温もりを感じた。

私が日本の食事に慣れていないことを知った日本のお母さんは、ヴィエトナム料理の本を苦労して買ってきて、それを見ながら一生懸命にヴィエトナム料理を作って食べさせてくれた。

日本の家族とともに住んで、日本の家族の生活や交際の仕方など、風俗習慣を理解した。茶道というお茶のいただき方や着物の着付けもお母さんから教

わった。そしてまた、日本人は科学技術や経済が発展した社会に生きているにもかかわらず、礼儀、親切心、他人に対する思いやりの心を忘れない、ということも知った。

2日間のホームステイはあっという間だった。荷物を持って帰ろうとする私の手首を、子供たちはつかんで泣いた。私も泣きたかったが、あたかも涙が逆流していくように、私は微笑んでいた。車が走り出した瞬間、私はしゃくりあげて泣いた。子供たちの振る小さな手が、だんだん霞んでいき、ひらひらと揺れるのが見えるだけになった。

日本からヴィエトナムに戻り、私は友人知人に、いろいろなことを話して聞かせるだろう。美しく近代的な国日本、優しさに満ちた人々のことを、私は一生忘れない。

## ■アジア

## ■タジキスタン

# 戦争と平和

ネクルース・ボキーエフ
(中央アジア混成 経済グループ)

私は、本物の戦争が終わったばかりの国から、世界で最も平和を愛する国の一つ、日本にやって来た。私の国は、今も銃声が鳴り響き、多くの家庭で身内の死が悼まれ、子供の帰りが数分でも遅くなると両親がたちまち心配し始める。日本では、子供が戦争ごっこをして遊んだりせず、大人はゲームセンターでゲーム機の画面に向かって撃つ時以外は武器を手にしたりしない。

私はタジキスタンで、戦争が人々にもたらすものは何か、を知った。それは、肉体的な痛み、精神的な苦痛、貧困、社会全体や個々人における否定的な感情の膨大な蓄積である。

私は日本で、平和が人々に与えるものは何か、を理解した。それは、穏やかな表情、満たされた生活、明日への信頼、人間が人間に対して憎悪していないこと、である。

戦争で完全に破壊され、原爆投下の惨禍、戦後の混乱と貧困を体験した国が、全世界に対して怒りを抱くことも、責任の所在を追及することもなく、地道にこつこつと破壊されたものを復興し、己のための新しい家を建設していったことの秘密はどこにあるのかを、日本で、私は知りたかった。私たちはその家を見た。そして、その家は私たちを魅了した。

宗教、国民性、単一民族だから、島国だから、それらに秘密があるのだろうか。分からない。しかし、いずれにせよ、どれほど平和が重要かつ必要なのかは、理解した。

広島で平和記念資料館を訪れて、ホテルに戻った時、米国がイラクを攻撃したことを知った。どこかでまた、人々が死んでいく。いろいろなものを見た後だったので、本当にショックを受けた。

私たちは、平和についてたくさん聞かされたし、また語らせられた。しかし、それはたいてい抽象的な言葉にすぎなかった。平和という言葉を理解するには、日本に来なければならなかったのだ、ということが分かった。

憎悪と敵意を脇に追い払えば、この世でいかなる奇跡をも実現することが可能なのだということを全人類に示し、平和に暮らしている、善良な人々の思い出を胸に、私は帰途につく。

## ■太平洋諸国・地域

## ■フィジー

## 世界が進むべき方向

ベゼリ・バレイコロカウ
(公務員グループ)

日本の生活を体験することによって、家族や友情を永続させるためにこの世界の人々はいかに生きていくべきかを、実際に知ることができた。

日本の人々の写真を見たり、話を聞いたり、歴史を学んだりしてきたが、実際に日本の生活様式を見たり体験してみると、現実はまったく違っていた。

また伝統文化は、私たちの将来の世代への希望を象徴する基礎をなすものであると思う。日本の人々は、伝統文化をとても大切にしていることを実感し、そういう日本人を私はとても尊敬している。

そのほかに感じたことは、日本の人々は家庭を大切にしていることや、家の中では、靴を履かないことなどだ。そしてすべては家庭から始まっている、ということを学んだ。まず家庭を大事にする人が将来、よいリーダーになれると思う。

日本人の前向きな考え方は素晴らしい。そして、世界はそうあるべきだ、と確信した。

この体験を生涯大切にして、信頼と友情をもって国造りをしていくために、この経験を活かしていきたいと思う。

## ■太平洋諸国・地域

■太平洋諸国・地域

# 友情、そして感謝

グループ全員
(太平洋混成 教員グループ)

### かけがえのない友情

太陽の子供　南の海から旅に出る
赤道を越え　日本を知るために
友情の種が若木の間に芽生え
文化、言葉、信念の壁を超えて花を咲かせる

太陽の人々　太平洋の海
はるばる故郷から日本人の謎を探しに渡ってくる
彼らは未来の大木の　様々な分野の育成者
それは教育、文化、言葉
肌の色、信念、それぞれが一つとなり、家族となる
友情の花によって島の住民は日本人となる

### 人生の好機

二度とないチャンス
思い出は死が訪れるまでいつまでも消えずに残る
キラキラした瞳は
魅力、歴史、信頼のテーマ、近代技術を発見する
変わり行く日本は時とともに歩んで行く

チャンスの神は人生に一度だけ訪れる
それは明るく強く生きた心地にさせてくれる
また近代技術をこの目で垣間見るチャンスさえも
与えてくれる
歴史への信念は生涯続くであろう
大阪、愛媛、そして驚くべき広島は、平和と調和の象徴であり
日本は風の流れに乗っている

### ホームステイ

互いを愛し思いやる優しい心が
太陽の息子の瞳に降り注ぐ
日本という命の花に柔らかく守られ
時も心も捧げられる
母鶏はその羽のもとに若鶏を抱く
互いを愛し思いやる優しい心

### 感謝

太鼓の鼓動は太陽のメッセージを貫き
子供たちの帰りを待ち望む
私のこの腕に戻っておいで
渇きと張り裂けそうな心を癒してあげよう

旅は終わり、新しいスタートを切る
崇められた知識が太鼓の鼓動に織り込まれ
魂の友、一生の恋人、哀しみ、敵をも打ち負かす
どうもありがとう

南と北西の海を流れ行く波に架かる橋
さようなら、必ず再び会いましょう
太陽の子供たちが若い木々を慈しみ育てる

■太平洋諸国・地域

■パプア・ニューギニア

## 敬意と謙遜にあふれた同質社会

ネヴィル・ジョン・チョイ
(公務員グループ)

「世界中を旅行したが、日本を見ずして世界を見たことにはならない。せっかく日本へ行くのだから、日本の人と文化についてできうる限り吸収してきなさい」

日本に来る前に、この青年招へい事業のかつての参加者が私たちに言ったこの言葉を、今でも思い出すことができる。

来日して最初の1週間を過ごした大阪で、私たちは日本人について知ることとなった。

それは、夜、2人の友人とともに買い物に出て、突然の雨に傘がなく立ち往生し、商店の軒下で雨がやむのを待っている時だった。道の向かいのガソリンスタンドの従業員が走り寄ってきて、私たちに傘を4本手渡したのだった。「ただでもらっていいのですか」と聞く間もなく、彼は満面に笑みをたたえ、「プレゼント、プレゼント」と言いながら、車にはねられるのではないかと私たちが心配するほど何度もお辞儀をしながら、あっという間に道の向こう側に帰ってしまった。そしてそれ以来、商店で、ホテルで、あらゆる場所で、他者に敬意を払うことを忘れない日本の人々に接し、私たちは何度も感銘をうけたのである。

私たちは日本滞在中に、様々なプログラムに参加した。合宿セミナーでは、日本人参加者とのディスカッションを通じて、お互いの国についての理解を深めた。神社を見学すると、伝統文化を大切に守っていこうとする日本人の気持ちが伝わってきた。近代的施設を訪問すると、効率を重んじる日本人がいかに近代化を推し進めてきたか、そして将来もどのようにその近代化を継続していくか、を理解することができた。

ホームステイは今回のプログラムの中でハイライトともいうべきものであり、私たちは皆敬意あふれる温かなもてなしを受け、たいへん感激した。

広島の平和記念資料館では、原爆の悲惨さを痛感すると同時に、焦土から国を再建した日本人の能力に感動した。

日本は二つの側面を私たちに見せてくれた。技術革新を進め世界のリーダーとしての日本と、簡素だが複雑な伝統社会としての日本と。

どうもありがとうございました。

## 時間

ジョン・カワゲ
(教員グループ)

日本の生活の豊かさと産業の発展の基本的な鍵は、実は、とても簡単なことだった。

多くの人々は何か複雑な理由があるように思うかもしれないが、私は"時間"が最も大切な要素だと考える。これは簡単な答えのように思えるが、けれども私は、時間がどのように使われるかを見て、非常に深い感銘を受けた。政府の組織や民間企業も、また人々も日々の時間の使い方が計画的である。人々は時間厳守であり、時間を有効に使っている。だからこそ、生活に進歩が見られるのだ。

公共の交通機関はスムーズに運行されるし、バスも電車も1、2分停車しただけで出発してしまう。もし、電車やバスに乗り遅れたら、それは遅刻してしまうことになる。

人々が歩いているのを観察するのも興味深い。誰も皆、わき目もふらずに歩いている。そして誰一人として時間を無駄にしているのを見なかった。また同時に、どうしてこんなに速く歩いたり走ったりするのだろうかとも思ったが、それは明らかに時間が大切だからだ。

人々は遅れるのを嫌う。パーティーやお祝いなどの楽しい会はだらだらと続くものと思われるが、日本人についてはそうではない。そういうこともきちんと決められた時間内で終了しなければならない。

日本の産業が急速な発展を遂げたのもうなずける。なぜなら、時間をうまく使うからだ。日本人は時間に畏敬の念を抱くほど、時間を貴重と思っている。時間を意識すれば、目的や志も達成することができる。それがまさに日本がしたことだった。

私は多くのものを見たり観察もしたが、最も印象に残ったのは、「時間」だった。時には、スーツケースを抱えて電車に乗るために走らなければならなかっ

た。そうしないと遅れてしまう。日本に住もうと思えば、時間をきちんと意識し、守らなければならないのだ。

## ■太平洋諸国・地域

## ■サモア

# 平和と愛

ファイガ・マラエフォノ・マウライティ
（太平洋混成 公務員グループ）

相互理解と真の友情に基づいた永く続く平和と繁栄の関係を築くこと。これがこの青年招へい事業の目的だ。太平洋諸国からの参加者は、21世紀には国の指導的立場になるだろう。そして私たちはこの機会に、日本の生活や文化を十分に体験できるのだ。

日本到着1日目。最初はただ「太平洋混成公務員」という同じグループにいるというだけだった。私たちは、互いに見知らぬ人同士で、言葉さえ交わさない、まるで産地直送の新鮮な野菜のようだった。でも、驚くことはない。知り合うのに時間はかからなかった。

お互いのことも日本のことも何も知らず、当然こうあるべきだ、と思っていたようにはいかなかった。しかし、28日間一緒に日本で過ごした今、まるで自分の国にいるように感じている。日本の人々は、私たちを自分の子供のように大切にしてくれて、皆が同じ母と父から生まれてきた兄弟姉妹のようだ。そして、「風邪をひかないように、気をつけて」といつも気遣ってくれた。すべてがうまくいくように気を使ってくれる、その素晴らしさは、どこかの惑星に迷い込んでしまったかと思えるほどだ。これを私たちは、〝愛〟と呼ぶ。日本滞在中に体験した最も大切なことだ。

日本の人たちは、私たちを甘やかすくらいの温かい愛で包み込み、私たちをよい気分にしてくれた。〝愛〟がなければ〝平和〟はない。〝愛〟されなければ〝平和〟は達成できない。私たちの滞在は、穏やかに、とても素晴らしく進んで行った。日本には億を超える人がいる。これらの人たちから、日本人が正直で優しく、親切であることを学んだ。日本人は本当に愛すべき人たちだ。

言いたいことは山ほどあるが、言葉だけでは私たちの心を伝えられない。何よりも、私たちの日本滞在を支えてくれたたくさんの人たちにお礼を言いたい。いろいろありがとうございました。私たちは皆様すべてを愛しています。

## ■アフリカ

## ■コートジボアール

# 日本の印象

ヤオ・アイェキ・カトリーヌ
(仏語圏女性教員グループ)

一国の継続的な発展は、経済成長、天然資源の合理的な利用、そして発展の当事者であるともにその享受者である人々の教育の上に成り立っていると思う。

日本の経験をより深く理解するために、コートジボアールを含むアフリカ18カ国の青年がJICAにより日本に招へいされた。このプログラムに参加できて、幸せに思う。

なかでも、

様々な国の教育制度の問題について議論することができた合宿セミナー

歴史上、困難な時期もあった日本の目覚ましい発展を理解させてくれたいろいろな見学

文化や職業の面で私の知識を豊かにしてくれた文化交流とホームステイ

が、特に素晴らしいプログラムだった。

日本での滞在を通じて印象に残ったのは、第一に日本人がたいへん礼儀正しく寛大であること、第二に日本文化と教育が様々な面で融合していること、第三に日本の文化的土壌と西欧的価値が調和していること、第四にこの美しい国の技術的進歩、最後に環境を保護するために研究・開発された技術、が挙げられる。

JICAにこうしたプログラムをさらに推進していただけたらと心から願っている。アフリカの青年は自分たちの文化的・職業的な見識を広げ、経済・技術発展の手本としての日本をよりよく知ることができるだろう。

このプログラムの成功のために尽くしてくださったすべての方々に感謝したい。特にコーディネーターの方々には1カ月の間、家を離れて私たちを指導していただき、ありがとうございました。

日本とアフリカの国際協力、及びJICAがさらに発展することをお祈り申し上げたい。

## ■アフリカ

## ■ガボン

# 日本発見

ジャン・ロジェ・オリビエ・ムンガンギ
(仏語圏理数科教員グループ)

青年招へい事業へ参加できる招待状を受け取った時、技術の進歩では知られているが、国民や文化については全く未知の国・日本を知りたいという思いに駆り立てられていた。

日本に到着してすぐ、日本人は計画的で節度があり、勤勉であることに気がついた。この印象は、日本に滞在している間に、確信に変わっていった。特に感銘を受けた日本人の長所は、万全な運営、時間の正確さ、他の人々への配慮などがある。

日本人は、技術が進歩している、仕事好き、ストレスを抱えている、これらのことから、他人、特にアフリカ人などには何の関心もないように思われがちである。だが、行く先々で、温かさと優しさに満ち、正直で真面目で率直な人々に出会った時、私たちの予想は完全に覆された。日本人のこの優しさに触れ、日本での滞在は忘れられないものとなった。まるで我が家にいるような気持ちで過ごすことができたからである。

滞在中、様々なことが印象に残ったが、なかでも特に印象深かったのは、以下のプログラムである。

横須賀での日本人青年との合宿セミナー

東落合中学校での理科の実験

ホームステイをはじめとする青森での滞在

平和都市広島での滞在

一方で、日本は物価が高く、日本人はよく働き、時には残業も辞さない。特に大都市では、ゲームセンターへ通ったり、家族が一緒に食事をする機会も少なく、他人との意思の疎通が不足しがちであることもよく分かった。

いずれにしても、この小文を終わるに当たり、日本に来る機会を与えてくださったJICAに感謝するとともに、日本滞在が成功裏に終わるよう、何らかの形で力を貸してくれたすべての人々に感謝の意を表したい。

## ■アフリカ

## ■ナミビア

# 日本での1カ月のプログラムを振り返って

エッダ・フィフケ・ボーン
(英語圏女性教員グループ)

アフリカから来日した21人の女性教員は、日本からはるか遠い、様々な文化を持った15カ国の代表だった。興奮とわずかな不安を抱きつつ、日本の人々と文化を学ぶために、故郷を後にし、日本に向かった。

私たちが受けた講義は、教育制度、何世代にもわたる社会の価値基準に根ざした生活様式などだった。私たちは、独特の日本の伝統を体験するとともに、先端技術を駆使した環境と同時に伝統が保存され、そのふたつが調和して素晴らしい形を作り出しているのを見た。文化遺産と近代の新しい時代という二者の整然とした紛れのない融合を目の当たりにしたのだ。

私たちは、十分な教育を受け、自己の将来に多様な選択の道がある日本の青年を羨ましく思った。学校での教育自体に、アフリカであれば各家庭でなされるべきであることまで、すべて組み込まれているようだった。武生の小学校で元気のよい児童と囲んだ、栄養のバランスのとれた温かい昼食もその一つだ。

中学校と高等学校の訪問した際の歓迎ぶりには、私たち全員が息を飲むほどだった。そして、生徒たちの、アフリカ大陸についての興味に答え、交流をするためには、30、40分ではとても時間が足りなかった。私たちが分かち合いたいことと、生徒たちが知りたいことが多すぎるのだった。

富士山を訪れ、それに加え、日本人が育んできた和紙作りの体験学習もハイライトの一つだった。それぞれ自分の作品を大切にすることだろう。

『にほんご21』を片手に、週末の日本家庭でのホームステイ体験、日本海や文化施設等の観光をさせていただき、とても楽しい日々になった。このような毎日の、そして1カ月の思い出は、しっかりと心に刻まれ、武生から広島に向かう、風の冷たい、朝のプラットフォームで、私たちは悲しさをかみしめていたのだった。

共通プログラムで渡されたパンフレットを読んでいたので、平和記念公園のドームや記念碑のもつ意味は分かったし、「母の祈り」のビデオ鑑賞では、無実の人々の苦しみや痛みに涙を流しながら、静かに平和な未来を願って一人一人が祈りを捧げた。

今回の私たちの日本訪問、文化交流が、私たち地球村の礎になるように、そしてそこでは様々な街角や街区に住む友人を大切にしよう。日本人であっても、アフリカ人であっても、私たちはたった一つの地球上で、平和な未来を築く一つの人間集団なのだから。

## ■アフリカ

### ■ザンビア

## 日本への旅

ステラ・ムワレ・ズィンバ
（英語圏理数科教員グループ）

日本の成田空港に到着したのは、1998年10月14日だった。皆の顔には、長い空の旅を終えた喜びがあった。私たちは、快適なリムジンバスで、ホテルメトロポリタンに着いた。そこはなんとしとやかなホテルであったろう。

最初の1週間、日本語の授業があった。「はじめまして」「おはようございます」「ありがとうございます」。そしてほかにもたくさんの日本語。

私たちは大阪に行った。関西創価小学校、天王寺中学校、泉北高等学校のことは、ずっと忘れられないだろう。多くの良き思い出ができた。素晴らしいプログラムだった。

合宿セミナーは、とても有意義だった。これは、参加者の日本の先生や通訳者が、週末の時間を犠牲にして、私たちのために費やしてくれたおかげだ。

私たちの理科の知識は、大阪府教育センターで豊かになった。ここでの経験は素晴らしく、ここでもっと研修するために招かれたらどんなにうれしいことだろうと思った。

ホームステイでは、たいへん歓迎してくれた家庭で、日本の生活を体験できて、とてもよかった。

次に行った大阪市立科学館で、高度な技術を目にした。またリバティ大阪では、日本の労働の歴史に触れることができた。

広島は、最後に訪れた場所だった。宮島の神社や原爆が落とされた場所を見たが、原爆資料館では、感情を揺さぶられる思いがした。

JICA、JICE、OFIXの皆さんや日本の人々の協力と友情に感謝します。

ドウモアリガトウゴザイマス。

## ■中南米

### ■エクアドル

## 日本に来て知ったこと

レオナルド・ヌニェス
（中南米混成 社会福祉グループ）

21世紀も間近となり、技術協力や調和のとれた共存、世界人類の友好構築など、多くの変化や変革が行われている。このコンセプトのもとに、JICAの青年招へい事業を通じて、私たち中南米混成社会福祉グループの参加者は、日本の専門家や専門機関、ホストファミリー、日本人青年、学校の教師や子供たちと意見を交わし、お互いの友情と信頼を築くことができた。

また、様々な機関を訪問して、日本の政策は子供や高齢者、障害者、教育機関に対して重点を置き、設備、資本、人材を投入していることが分かった。

そして、日本人青年と語り合い、日常生活を垣間見るという素晴らしい機会を得て、日本人のルーツ、文化、宗教、歴史を理解した。また、私たちの文化に根づく思考や行動パターンと照らし合わせて、共通点、相違点を見いだすこともできた。

ホームステイでは、日本の家庭をより近くから見る経験をした。また、観光地を訪問して、日本はただ工業先進国なのではなく、伝統文化、自然に富んだ国であることも知った。

今回のプログラムの運営にあたってご尽力くださったすべての関係機関にお礼を申し上げたい。また、日本という素晴らしい国を訪問する機会をくださったことに心より感謝している。

## ■中南米

### ■ホンデュラス

### イチャリバチョーデー：一度会ったら皆兄弟

ジェッセニア・スジャパ・ルーケ・パディージャ
（中南米混成 小中学校教員グループ）

日本とラテンアメリカとの友好を目的とする青年招へい事業に参加する中南米混成小中学校教員グループは、1999年1月20日に新東京国際空港（成田）に到着した。教育専門家を団員とする私たちグループは、JICAの企画・運営により、レクリエーションや社会活動など、深い満足とともに成功裏に進んだ。このプログラムに、中南米から教員が参加するのは初めてであったが、私たちそれぞれが、専門・職業的に、また個人的に、生涯にわたって意義ある、そして忘れられない体験をした。

私たちは、日本各地を訪問する機会を得て、日本の文化、伝統を知り、忘れ難いひとときを味わうとともに、人々の友情と親切に触れることができた。距離や国境というものは、異なる文化を結び付けたり、平和や友愛を保つために、障害にはならないことが分かった。

私たちと日本の教員の方々は、日本とラテンアメリカとの関係を最高のものとするため、また私たちの子供たちや国民の未来を準備するという目標に向け教育制度を改善することなど、同じ目的を共有している。私たちは、日本の教員の方々の仕事を評価し、彼らの努力が実を結ぶことを願う。

私たちは、このプログラムを可能にし、なおかつ私たちの日本滞在とプログラムを楽しく満足のいくものにしてくださったJICA、JICE、JOCA、沖縄国際交流財団の各機関・団体に感謝したい。

私たちはそれぞれの国で応用できる実際的な知識を身につけ、日出づる国、日本の美しさを人々に伝えることができるだろう。

明日、私たちは日本を去るが、日本はこれからも私たちの心の中にとどまり続けるだろう。どうもありがとう。

## ■中近東

### ■サウディ・アラビア

### 平和を愛する国との出合い

アブドゥルラフマーン・ハマド・アルタンマーミィ
（教育グループ）

私たちサウディ・アラビア教育グループ20人にとって、日本における近代化の様々な側面は印象深いものだった。具体的には、高度に進歩した電子機器、近代的な公共交通機関と情報ネットワーク、伝統的様式を見事に取り入れた現代建築等々である。

日本は、様々な相反する表情を見せてくれる。例えば、のどかで緑豊かな郊外の風景と、混雑して活気のある街の通り、そして、伝統的な美しい日本的様式の建築物と現代的高層建築物。

ここで申し上げておきたいのは、私たちサウディ人も似通った近代化の様相を経験していることだ。だから、日本で見聞きしたことは、私たちにとっては大きなショックとはならなかったのだ。

日本について多くのことを耳にしてきたが、私たちは間近にこの国を観察することができた。何よりも私たちにとって印象深かったのは、日本が国を挙げて平和のために力を注いでいることである。日本人はきわめて友好的で平和を愛する人たちだ。私たちもイスラム教徒として、それは素晴らしいことだと思う。イスラム教は、平和を進める教えであり、すべての人類がイスラムの教えにより平安なる日々を送ることを呼びかけている。

最後に、日本が大量破壊兵器の根絶と世界平和の実現のための呼びかけを続けていることに、心からの支援、支持を捧げたいと思う。